

東京外国語大学 留学生支援の会

No.37

第37回発行

Since 1999

会報

新規ご加入、ご寄付くださった皆様のご協力に御礼申し上げます。
今だからこそ、多くの留学生は皆様の支援を必要としています！！

Pick Up
Event 2011

外語大で学ぶ喜びとともに！

“これはまさに、勉強の中から遊ぶ、遊ぶと同時に勉強するというような大学は、東京外国語大学にある。”という留学生の声。そして苦勞も…。(詳細は11ページ)

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5759 FAX 042-330-5762

E-mail tufs-issa@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

INSIDE

Page 1.	1. 巻頭言
Page 2.	2. ご挨拶
Page 3.	3. 事業報告と事業計画(案)
	3-1 平成22年度事業報告
	3-2 平成23年度事業計画(案)
	3-3 平成22年度一般会計報告と平成23年度予算(案)
	3-4 平成22年度特別会計報告
	3-5 中島記念国際交流財団の助成金について
Page 9.	4. 活動報告
	4-1 バザー報告
Page 10.	5. ホームビジット&ホームステイ
Page 11.	6. 留学生の声
Page 13.	7. 会員の声
Page 15.	8. これからの活動

FOCUS

1. 巻頭言

循環する支援の輪

前留学生日本語教育センター長
田山のり子

「留学生支援の会」については、留学生たちにとって常に身近にあって、なくてはならない頼もしい存在だというのが実感です。私はこの3月まで留学生日本語教育センターの教員として、学校教育以外でのサポートが留学生に必要な場面に幾度も遭遇してきましたが、その度に「留学生支援の会」を支えにできること、そして、それが学生のみならず教職員にまで、いかに生活上の安心感を与えているかを身にしみて感じてきました。退職した今は、一人の応援団として、本会がこれからも留学生を温かく支援していけるよう微力を尽くしたいと考えております。

大学で留学生を教える教員にとって留学体験は学生たちを理解する上で重要なものと考えます。自分が留学して、いろいろなことで困ったり、助けられたりした経験があるので、助けを必要とする留学生に対す

る共感性が自然に高くなると言えるでしょう。私も大学院時代に交換留学生として韓国の高麗大学校に1年半留学した経験があります。今から30年近くも前のことですが、当時も教科書問題で日韓関係がぎくしゃくしていました。日本に対する反発の過激な部分に注目が集まり報道されていたので、周囲では留学を心配する声が多かったです。しかし、実際に行ってみて、それは杞憂だということがわかりました。多くの方たちが不案内な私を気遣い、手助けをしてくれたことに感謝しています。

ですから、3月に起こった東日本大震災の報道により、日本に留学する学生たちが激減していることについても、日本の現状をきちんと捉えることが難しく過度に反応している部分が大いのではないかと感じています。現在、日本で勉強している留学生の皆さんが、日本での勉学には支障がないことを国の方々にきちんと伝えてほしいと思います。何といても、留学生の皆さんは日本との重要な掛け橋なのですから。

自分が留学生であった時、「人の世話になるばかりで本当に申し訳ない気持ちでいっぱいだ」と言ったところ、ある人からこう言われました。「あなたは日本にいた時、多くの外国人の方々に日本語を教えたり、お世話をしてきたのでしょう。それを今は別の人たちから返してもらっていると考えたらいいのですよ。そして、今、受けている親切に対しては、今度日本に帰ってから接する外国人の方々に返してあげたらいいのですよ」と。私たちは、今行われている支援がここだけの関係で終わるのではなく、巡りめぐって、世界中のどこかの町で、今度は逆の立場で行われる循環した輪の中にあることを自覚したいものです。

2. ご挨拶

新緑は今年も美しい

会長 中嶋 洋子

東日本大震災で亡くなられた方がたのご冥福をお祈りし、被災された皆様に心からお見舞いを申しあげます。

この大震災の様子について、テレビや新聞をとおして被災された方々の忍耐の強さ、そして優しさに触れ、私は深い感銘を受けています。

被災された方々の悲哀に寄り添うすべは私にはすぐには見つかりませんが、謙虚に日々を重ね、皆様のお気持ちに近づきたいと思っています。

かくも美しく天を仰いでいる新緑の木々よ！

東北の未来を、日本の未来をどうぞ見守り給え！

さて、当会の平成23年度の活動が始まりますが、まずここでは、平成22年度の事業についていくつか報告させていただきます。

○震災の影響もあって3月21日に予定していた鎌倉見学を残念ながら中止いたしました。

○好評だった自転車貸出事業を、22年度をもって中止することにいたしました。その事情を簡潔に報告いたします。

①連絡室で留学生に向き合い実際に貸出手続きをするときの事務の煩雑さ(自転車の選択、譲渡証明書や貸与証明書、覚書への必要事項の記入それらのコピー、保証金の預かり、保険加入の確認、台帳への記入、予約リストへの記入などなど多くのことがあります)に日々交替する担当者が充分その責任を負うことが困難になってきている。

②帰国時、自転車返却後の整理の煩雑さ。

③返却せずに帰国する学生、盗難にあっても連絡せず結局返却しない、それらのことの後始末。

④行方不明の自転車が次第に増えてきたこと。

⑤貸出の多い時期(4月、10月)に、不備な自転車が多く、留学生の希望に添いきれない。

以上のような状況に鑑み、残念ですが当会としては中止、とあいなりました。ご了承ください。

大学の生協で“エコチャリ”と称して修理された中古自転車の有料貸出をおこなっており、留学生にその情報を提供しています。

○当会の事業の一つに、大学の多言語・多文化教育研究センターとの共催のもと、“留学生と日本人学生との交流会”を多くの日本人に参加してもらいたいといった趣旨もあり、平成20、21年度の2年間、行なってきました。

REPORT

3. 事業報告と事業計画(案)

3-1 平成22年度事業報告

A. 生活支援事業

1. 給付事業

(1) 生活用品・図書を廉価で給付するバザーを開きました。

1) 春期バザー

期日 4月26～27日

場所 国際交流会館2号館

交流ホール

来場者 約200名

2) 秋期バザー

期日 10月19日～20日

場所 国際交流会館2号館

交流ホール

来場者 200名

(2) 入院見舞金を贈りました。

入院5日以上留学生2名に、見舞金1人に1万円を贈りました。

(3) 博士論文印刷費補助金を支給しました。

博士学位取得者5名に論文印刷費補助金1人5万円を支給しました。

2. 貸与事業

(1) 緊急貸付金を貸与しました。

「留学生緊急貸付基金」より、授業料納入等で困窮している留学生に貸与。

基金総額 6,247,551円

貸付総額 5,712,200円

平成23年度当初貸付可能額5,652,551円

(2) 自転車を貸し出しました。

修理点検等による貸し出し用自転車74台

3. 相談事業

留学生の住居・学費・自転車事故等に関する相談に対応しました。

B. 友好親善事業

1. 国際交流事業

(1) 国際交流の夕べ(留学生交流会)を大学と共催しました。

平成22年12月17日、大学会館

参加者 留学生120名

日本人学生40名、来賓等60名、

幹事12名、合計232名

しかし、日本人学生の求める留学生との交流の内容にややずれ違いがあったこともあり、平成22年度はこの交流会を開催することができませんでした。今後は、共催の形を取り止め、もともと、“各国文化紹介——お茶とお菓子をとおして——”と称して、会独自に、いろいろな国の留学生が順に自国の紹介をすることで好評のうちに継続してきたものに再度戻して行なうことにしました。そうした中で同時に、留学生と日本人学生の交流会を継続していくことにいたしました。

○最後に皆様にお詫びしなければならないことがあります。

前号(36号)会報に大きなミスがあったことについてです。

活動報告(3-1 国会議事堂・江戸東京博物館見学とちゃんこ鍋を囲む懇親会 幹事・鈴木 記)の文章が入力ミスや変換ミス他の大変読みづらい報告になってしまいました。いろいろ会としての多忙な状況が重なったうえ、皆様への会報送付を急ぐあまり校正に大変な甘さがあったことを、会員の皆様と報告者の鈴木幹事にお詫びいたします。今後充分気をつけたいと反省しております。

次に、本年度の事業計画についてですが、詳しくは5、7ページの事業計画(案)、予算(案)をご覧くださいと思いますが、次の2点を報告いたします。

○今年度も400名程の外語大学新入生の保護者の方々が当会にご入会くださいました。

当会活動の財源は年会費3,000円と若干の寄付でまかなっております。多くの皆様のご入会はなによりも大きな力、です。

どうぞ来年度もそしてその後も会員としてご協力くださいますようお願いいたします。

○各種イベントに加え、新しい事業として、学位論文に関わる研究成果を、国際学会・国内の学会に出席し発表する大学院生(留学生)に対し、その旅費の一部を助成することにいたしました。



2. 会員等の協力による友好親善事業

(1) 会員の協力によりホームステイを受入れていただきました。

静岡県沼津市 19家庭 留学生25名
千葉県いすみ市 1家庭 留学生6名
新潟県長岡市 1家庭 留学生4名
東京都 4家庭 留学生4名
愛媛県新居浜市 1家庭 留学生1名

(2) 会員のご好意により新年会を開いていただきました。

東京都板橋区中嶋洋子会長宅
平成23年1月2日 留学生100名

(3) 地域の文化的行事に参加しました。

- 1) 府中市紅葉が丘文化センター文化祭
日時 10月24日
参加者 留学生12名、
日本人学生3名、幹事5名
- 2) 府中市多磨駅前商店街秋祭り
日時 10月11日(月)
参加者 留学生9名

参加者 留学生22名、
日本人学生等20名

5) 留学生と小学生のための将棋教室を開きました。

日時 8月2～3日
場所 国際交流会館2号館
交流ホール

参加者 留学生4名、小学生15名、
講師等5名

6) 富士山麓バスツアーに参加しました。(会員の協力事業)

日時 平成22年8月2～3日

参加者 留学生14名

日時 平成23年2月22～
24日

参加者 留学生11名

2. 国際理解事業

小中高校の国際理解教育の授業へ留学生を派遣しました。

(1) 小金井東小学校

5月20日、6月29日、7月16日
10月14日、10月20日、12月7日
参加者27名

(2) 町田市立真光寺中学校

7月3日 参加者6名

(3) 川崎市立はるひの中学校

12月10日、1月28日、2月25日
参加者6名

(4) 都立農業高等学校ESSクラブ

6月1日、7月13日、10月19日、
11月2日、2月8日
参加者10名

(5) 調布北高等学校

11月18日、参加者4名

(6) 明星学園

11月6日、参加者4名

(7) 府中市立武蔵台小学校

2月2日、2月22日、参加者8名

(8) 府中第2中学校

3月4日、参加者5名

C. 相互理解事業

1. 日本理解事業

(1) 日本文化を見学

- 1) 歌舞伎を見学し、懇親茶話会を開きました。
日時 7月4日
場所 国立劇場「歌舞伎鑑賞教室」
参加者 留学生24名、
日本人学生10名、幹事10名
- 2) 国会議事堂・江戸東京博物館を見学
ちゃんこ鍋を囲む懇親会を開きました。
日時 11月27日
参加者 留学生33名、日本人学生
6名、幹事9名
- 3) 大國魂神社くらやみ祭へ参加しました。
日時 5月4日
参加者 留学生10名、
日本人学生8名、幹事2名

(2) 日本文化の体験

- 1) 「日本文化体験教室」を大学と共催しました。
日時 12月17日
場所 学生会館等
振袖着付け、華道、茶道、墨絵、折紙、
和紙人形、囲碁、将棋、伝統的遊び
参加者 留学生137名
- 2) 日本語広場を開設しました。
講師 3名、受講者 10名
- 3) 各種文化教室を開きました。
華道、茶道、書道、囲碁、将棋、尺八
毎週開設 参加留学生 80名
- 4) 七夕茶会を開きました。
日時 7月6日
場所 学生会館

D. 広報その他の事業

1. 支援の会の「会報」を発行しました。

第34号 平成22年 6月
第35号 平成22年11月
第36号 平成23年 2月

2. ホームページを運営しました。

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

3. 大学新入生入学式等いろいろな機会に広報活動を行っています。

4. 幹事会を開催し、行事の企画・運営等を相談しました。

第1回	平成22年	4月25日
第2回		5月22日
第3回		6月20日
第4回		7月18日
第5回		10月17日
第6回		11月20日
第7回		12月5日
第8回	平成23年	1月15日
第9回		2月19日

5. 会員数1, 165名
(平成23年3月末)



3-2 平成23年度事業計画(案)

A. 生活支援事業

1. 給付事業

- (1) 生活用品・図書のパザー (廉価で給付)
春期パザー4月19日(火)~21日(木)、
秋期パザー10月または11月
- (2) 入院見舞金
入院5日以上に、1人 10,000円
- (3) 博士論文印刷費補助
1人 5万円、5人
- (4) 学会発表者への旅費助成金
国外の学会参加者5万円、
国内の学会参加者2万円

2. 貸与事業

- (1) 緊急貸付金
緊急貸付基金より授業料等緊急に必要な
経費のために貸与。

3. 相談事業

住居・交通事故・法律等の相談に対応。

B. 友好親善事業

1. 国際交流事業

- (1) 「国際交流の夕べ」の開催 (大学と共催)
留学生全員を招待 12月中旬予定
- (2) 各国文化紹介
—お茶とお菓子をとおして—
留学生同士の交流、日本人学生との
交流会 の開催を年2回

2. 会員等の協力による友好親善事業

- (1) 会員の協力によるホームステイ・ホーム
ビジット受入れ
ご協力いただく会員のお宅へ伺う
- (2) 会員のご好意による新年会、その他交流
会の開催
- (3) 地域の文化的行事への参加

C. 相互理解事業

1. 日本理解事業

(1) 日本文化の見学

- 1) 歌舞伎鑑賞と茶話会
6月26日国立劇場「歌舞伎鑑賞教室」
- 2) 国会議事堂、江戸東京博物館の見学と
相撲ちゃんこ鍋会食
10月または11月
- 3) 鎌倉史跡の見学
平成24年3月
- 4) 地元のお祭り等文化的行事の見学

(2) 日本文化の体験

- 1) 「日本文化体験教室」の開設
(大学と共催) 12月中旬
- 2) 日本語広場の開設
毎週 3回
- 3) 各種日本文化教室の開設 (毎週)
華道・茶道・書道・囲碁・将棋・尺八
- 4) 七夕茶会
7月

2. 国際理解事業

- (1) 国際理解教育授業への留学生の派遣
地元の小学校・中学校・高等学校

D. 広報その他の事業

1. 「支援の会会報」誌の刊行

- 第37号 (平成23年6月)
- 第38号 (11月)
- 第39号 (平成24年2月)

2. ホームページの運営

3. 会員募集のための諸活動

大学新入生入学式の際など



3-3 資料：会計報告と予算(案)

平成22年度 一般会計収支決算

東京外国語大学留学生支援の会 平成22年度 一般会計収支決算 平成22年4月1日～平成23年3月31日

《収入の部》

科目	項目	22年度予算額	22年度決算額	備考
前年度繰越金		3,269,120	3,269,120	
会費	一般会員	1,656,000	2,109,000	3,000円×703名 但し298名884,000円は23年度分前受金前受金差引後405名1,215,000円(但し348名1,044,000円を21年度に前受済)
	協賛会員	160,000	200,000	20,000円×10名 但し4名80,000円は23年度分前受金前受金差引後120,000円(但し40,000円を21年度に前受済)
寄付	一般	432,000	515,000	但し79,000円は23年度分前受金 前受金差引後436,000円(但し21年度に68,000円前受済)
	緊急貸付基金	100,000	120,000	
助成金	中島財団助成金	1,536,000	1,536,000	
その他	バザー等	200,000	251,601	バザー収益金・国際交流のタバカンパ・行事参加費
	利息	1,000	632	
収入の部合計(A)		7,354,120	8,001,353	但し1,053,000円は23年度分前受金 前受金差引後6,948,353円

《支出の部》

科目	項目	22年度予算額	22年度決算額	摘要
活動費 (友好親善事業・相互理解事業)	国際交流行事共催費	400,000	270,000	伝統文化体験費・交際会費(大学との共催)
	史跡見学費	150,000	-	鎌倉見学
	日本文化見学費	250,000	312,850	歌舞伎、国会議事堂・江戸東京博物館・懇親会
	日本文化体験費	776,000	712,817	華道・書道・茶道・日本語広場他
	日本人学生との交流	200,000	-	茶・菓子・料理等
	その他の交流活動費	926,210	931,760	国際理解教育交通費・謝金
活動費 (生活支援事業)	自転車貸出事業	150,000	34,834	
	補助金	320,000	270,000	入院補助金・博士論文印刷費補助金
	活動費小計(a)	3,172,210	2,532,261	
運営費	ホームページ管理費	170,000	166,016	ホームページ管理費10,000円/月・プロバイダ使用料
	消耗品費	30,000	25,380	
	備品費	30,000	147,034	パソコン・プリンター・裁断機購入
	通信費	320,000	319,800	会報発送費等
	印刷費	283,790	409,912	会報・封筒等印刷費
	会議費	5,000	-	
	連絡室運営費	10,000	30,294	
	郵便振替手数料	50,010	76,195	但し29,400円は23年度分前払金 前払金差引後54,385円(但し34,990円を21年度に前払い済)
	その他	200,000	186,220	
	運営費小計(b)	1,098,800	1,360,851	但し29,400円は23年度分前払金 前払金差引後1,331,451円
予備費	(c)	100,000	-	
繰入金	緊急貸付基金(d)	900,000	1,019,831	
支出の部の合計(B)	(a)+(b)+(c)+(d)	5,271,010	4,912,943	但し29,400円は23年度分前払金 前払金差引後4,883,543円
次年度繰越金 (A)-(B)		2,083,110	3,088,410	但し23年度分前受金前払金計1,023,600円差引後2,064,810円

(A)-(B)=3,088,410円は、平成23年度へ繰越

平成23年5月27日

上記の通り相違ありません。

監事 川口健一 (M)

平成23年度 一般会計予算（案）

《収入の部》

科目	項目	23年度予算額	備考
前年度繰越金		3,088,410	
会費	一般会員	1,506,000	3,000円×800名 894,000円前受済 会員数約1,550名
	協賛会員	120,000	20,000円×10名 但し80,000円前受済
寄付	一般	421,000	但し79,000円前受済
	緊急貸付基金	100,000	
助成金	中島財団助成金	-	
その他	バザー等	300,000	バザー収益・国際交流のタベカンパ・行事参加費
	利息	1,000	
収入の部合計(A)		5,536,410	但し1,053,000円前受済

《支出の部》

科目	項目	23年度予算額	摘要
活動費 (友好親善事業・ 相互理解事業)	国際交流行事共催費	360,000	伝統文化体験費・交流会費(大学との共催)
	史跡見学費	150,000	鎌倉見学
	日本文化見学費	300,000	歌舞伎見学、国会議事堂・江戸東京博物館見学
	日本文化体験費	150,000	華道・書道・茶道等
	日本人学生との交流会	150,000	茶・菓子等
	その他の交流活動費	60,000	国際理解教育謝金
活動費 (生活支援事業)	自転車貸出事業	-	
	補助金	520,000	入院補助金・博士論文印刷費補助金・学会発表出席旅費補助金
	活動費小計(a)	1,690,000	
運営費	ホームページ管理費	170,000	ホームページ管理費10,000円/月・プロバイダ使用料
	消耗品費	30,000	文具等
	備品費	30,000	
	通信費	400,000	会報発送費
	印刷費	320,000	会報印刷費
	会議費	-	
	連絡室運営費	30,000	
	郵便振替手数料	52,600	但し29,400円前払済
	その他	200,000	アルバイト代
	運営費小計(b)	1,232,600	但し29,400円前払済
予備費	(c)	100,000	
繰入金	緊急貸付基金(d)	500,000	
支出の部の合計(B)	(a)+(b)+(c)+(d)	3,522,600	
次年度繰越金 (A)-(B)		2,013,810	

3-4 平成22年度特別会計 (緊急貸付基金)報告

1	前期末基金総額	5,227,720
2	当期基金積み増し額 (一般会計からの繰り入れ 900,000+ バザー売上げ金 119,831)	1,019,831
3	当期基金総額 (1 + 2)	6,247,551
4	前期末貸付残額	4,847,200
5	当期貸付額 42件(授業料等 11件、生活費 12件、 家賃・引越し等 17件、交通事故弁済費 2件)	2,965,000
6	当期返済(回収)額	2,100,000
7	当期末貸付残額 (4+5-6)	5,712,200
8	当期損金計上	595,000
9	損金計上後の貸付残高(7-8)	5,117,200
10	貸付可能繰越金	535,551
11	次年度期初基金総額 (3-8)	5,652,551

早くも、この緊急貸付金の制度を始めて早くも10年がたちました。当初は160万円だった貸付基金も、今年度までに624万円に増えました。その間に、374人の留学生が、学費、医療費、引っ越し、生活費などのためにこの制度を利用し、学業生活を継続してきました。このことは、会員の皆様のご支援のお陰と感謝しております。

ところで今年度も、世界的な不況が回復せず、留学生達の本国の財政状況も悪くなる一方です。日本での奨学金やアルバイトも減っており、これまで以上に返済が長引いている留学生が多くなっています。除籍にならないために授業料を支払うと、アパートの家賃が払えなくなり、貸付金を借りてしのぐ学生、アルバイト代が出るまで食費がないと、生活費を借りに来る学生も増えてきています。また、親の病気や店の倒産などで、仕送りを受けられないどころか、送金をして家族を助けざるを得ない状況になって、最終的に退学していく学生もいました。在学中は返済の余裕がなく、就職してから返すと云って連絡を続けていた学生

で、最近連絡がとれなくなってしまったという者も何人か出てきました。3月11日の震災の前に帰国して戻ってこられないままになっている学生もいます。

私達は、これまでどおり貸付金の返済に滞りがないよう、出来る限り連絡と催促に努めて参りましたが、今年度も貸付運用指針に基づき、回収がきわめて困難と思える595,000円について、損金処理をすることになりました。

以上22年度報告に変えます。
(貸付担当幹事 梅田由美子)

3-5 中島記念国際交流財団の 助成金について

今年度は、中島記念国際交流財団の国際理解・地域交流推進事業に対する助成金を申請し、約150万円の予算をいただくことができました。

これまでは、留学生たちの国際理解を深めさせるために、日本語教室、日本文化教室(華道・書道・尺八・囲碁・将棋)の開設をしてきましたが、これらはみな、会員の方の無償の支援で行われてきていました。また、地域社会との交流を通じて留学生の日本への理解を深めさせ、一方地域社会のグローバル化への参画の一活動として、近隣の小中学校や高校の国際理解授業への派遣と、会員宅へのホームステイの受け入れ事業なども通常の活動として行ってきましたが、これらもまた、ほとんど無償で実施されてきていました。

今回、財団の予算を得ることで、これまでの事業をボランティアでしてくださっていた、先生方やホームステイ受け入れ家庭へ、幾分かの謝意を表すことができました。また、留学生にとっては、学校での講師を務めることで、自分の国のことをみんなに知ってもらい喜びを得ると同時に、それに対する謝金が経済的な支援にもなり、とても有意義な活動をすることができました。これは、初めての試みでした。

ただ、今年度は初めての申請ということで、①日本語教室の開設、②日本文化教室の開設③近隣の小中学校、高等学校の国際理解事業への留学生の派遣④ホームステイ・ホームビジットの受け入れという4つの事業を同時に実施する企画を提出し、承認されたため、計画通りに実施するのに、会計処理や、事業

実施のための様々な業務が、人力不足のため、担当者にとってハードワークになりました。支援の会としては、財団からの助成金は、活動の円滑化のためにも有効な資金ですが、少し余裕を持って事業を企画し、実施するために、1年空けて申請することになりました。今後、このような業務に力をお貸しいただける方がおありでしたら、是非お力添えをお願いいたします。報告書も作成しましたので、もし、ご要望がありましたらご連絡ください。(50名まで) (梅田)

4. 活動報告

4-1 4月期バザー

2011年 春期バザーへのご協力 ありがとうございました

まず、3月11日の東日本大震災のため、お亡くなりになった方々のご冥福を祈り、被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。

ところで、この震災のために急ぎよ帰国したり、来日を延期したりしている留学生も多いと聞き、支援の会でも、予定どおりにバザーを開催するかどうかを検討していました。しかし、大学の新学期も予定通りに始まり、学生たちも戻ってきて、予定通りに来日する学生も多くなった状況を見て、スケジュールどおり、4月19日(火)～21日(木)の3日間、春期バザーを開催しました。

今期は、震災の影響もあり、ご寄付くださった品物が、例年の半分ほどで、参加する学生の数も例年より少なく、150名ほどでした。

集まった品物ですが、今年も、寝具、タオル、電気釜、トースター、電子レンジなど、新しいものが多くありました。電気ポット、お皿などの日用品、それに書籍などもたくさん送っていただきました。また、机や本箱、電気スタンドなど、卒業する留学生がバザーで買った物を、また後輩にと、持ってきたものもありました。

来日して間もない留学生たちは、新しい生活を始めるのに必要なものが、バザーでそろえられることがとても嬉しいと、色々選んで、喜んで持ち帰ってしま

た。電気製品の新しい物は、くじ引きで当たった人のところに渡りました。今季は、お雛飾りを数体、寄贈したいとの申し出があり、それもすぐに帰国時のお土産に欲しいとそれぞれ行き先が決まりました。靴やバック、食品なども、ほとんどがなくなりました。しかし、残念なことに、書籍が多く残りましたが、残ったものは次回にまわすことにいたしました。

なお、今回も原則として、電気製品は500円、他はすべて100円(小さな物はまとめて)、書籍はただしました。

バザーの収益金は、33,210.円でした。

* いつもながら毎回、送料もいとわず、様々な品物を提供して下さった会員の皆様には、留学生ともども心から感謝申し上げます。

以下、留学生の感想です。

まるで新しい冷蔵庫、気持ちいい!!

研究生 トウエイ
(中国)

初めて日本に来て、初めて一人暮らしをしてみた。いろんな「初めて」に囲まれて、たくさんものが必要だということに気付いた。

まずは、解決しなければならないのは生活用品だ。「どうしようかなあ」と困った時に、留学生支援の会が行ったバザーに助けられた。

私は、冷蔵庫と机セットなどをたった2千円で買った。本当に安かった。そして、食器もたくさんただでもらった。留学生の私にとって、なんと助かったことだろう。

今、その紫色の冷蔵庫がちゃんと家のキッチンに立っている。冷蔵力と冷凍力が強くて、中古品だとは全然思わなかった。まるで新しい冷蔵庫のように、ちゃんと働いている。冷蔵庫のドアを開くたびに、新鮮なおいがわいてくるような感じがする。ああ、気持ちいいなあ！他のものもいま大事に使っている。

バザーのことは、絶対に忘れない。バザーのことを通じて、日本人ならではの細かい心遣いが感じられる。みんなが親切に手伝ってくれたからこそ、今の心地よい生活があるのだ。本当に心より感謝している。今度、私は絶対に後輩にバザーのことを紹介するわ!

EXPERIENCE

5. ホームビジット&ステイ

5-1

松本市でのホームステイ～朝から晩まで～

I SEP エングラー・ダニエル
(スイス)



この春休みは、四月8日から10日まで東京外国語大学を介して、三日間のホームステイをすることになり、長野県の松本市の橋本ご夫妻の家に行っ

てきました。春休みにホームステイをするとは思っていませんでしたが、留学生支援の会で勧められて、四月7日午後高速バスに乗って旅立ちました。松本駅に着いたら、橋本夫人が私を迎えに来ました。会ってすぐ、車で家に行きました。お医者さんであるご主人はまだ帰っていませんでしたが、三人で晩ご飯を食べるよう一緒に待ちました。お父さんは、私のために普段より早く仕事を終えて帰ってきました。お互いにお話して知り合っ、お母さんの美味しい晩ご飯を食べました。橋本ご夫妻はとても親切な人と、すぐにわかりました。日本語だけで、会話は問題がなく流れました。もちろん、会話は、そんなに複雑ではありませんでしたが、家族や仕事や長野県や日本の話をしました。

最初の一日は、お母さんと二人で松本市の地名である、松本城を訪ねました。そして、その隣の店で有名な手打ち蕎麦を食べました。お母さんは、たくさん話してくれて、朝から晩まで日本語の練習になりました。食べ物の話だけでなく、人間関係についても話せました。

次の日は、お父さんと近くに出発ということで、アルプス公園に行きました。天気は曇りでしたが、そこから長野県の山や広さが見えました。公園には、様々な動物が放し飼いになっていて、日本猿は何匹もいました。後で、お父さんがアメリカで、類人猿



の研究をしていたことが分かりました。

同じ日の夕方は、お父さんは仕事で出かけましたが、橋本夫妻の友人の桜井さんとその子供が家に遊びに来ました。六人で盛り上がり、食事をしました。一緒に楽しい時間を過ごしました。色々な種類の美味しい食べ物が山ほどありました。



翌日の日曜日は、運よく晴れた日で、橋本ご夫妻は二人とも空いていました。三人で諏訪湖に行きました。景色は本当に綺麗で、スイスの自然と似ていました。毎年、諏訪湖沿いでハーフマラソンが行われていて、お父

さんも参加するらしいです。帰りに近くの神社を訪れましたが、残念ながら工事中でした。ですが、最後の日の外出も楽しかったです。

私のホームステイでは、橋本さんに大変お世話をお掛けしましたが、素敵な三日間を過ごすことが出来ました。松本市での滞在は、絶対に忘れません。

5-2

6年間のホームステイ受け入れ

橋本 由紀子

もう18年も前になりますが、夫の研究のため子供二人を連れて渡米し、アトランタで2年半暮らしました。初めて行ったハンバーガー店で、“Here or to go?” さえ聞き取れない日本人家族が悪戦苦闘したのは言うまでもありません。でも、そんな私達をサザンホスピタリティは温かく支えてくれました。我が家がホームステイの受け入れを始めたのは6年前、長女の東外大入学がきっかけでしたが、留学生支援の会への入会を決めたのは、アメリカでうけた親切を日本で何らかの形でお返しできればという思いからでした。

住んでいる松本市のホームステイ依頼も含めると、これまでに出会った留学生は20人を超えました。期間は2日間から4週間まで様々、イタリア・オランダ・スイス・シリア・ベラルーシ・モンゴル・中国・コロンビア・

韓国・エジプト・フィリピン……といろいろな国に接する機会を与えていただきました。

それぞれが心に残る出会いでした。「私の拙い日本語にもあたたかく……」とお礼のメールをくれた中国の留学生。自分の娘達は使ったことがないであろう‘拙い’という言葉が妙に心に響いたのを覚えています。彼女の滑らかな日本語と手紙の文字の美しさ、謙虚さ、気遣いは日本人以上でした。今は、中国の大学で日本語を教えているそうです。

昨年3月にホームステイしたコロンビアの大学院生マリア。社会人としての経験もあったからでしょうか。私のへたな英語にもよく付き合ってくれ、話題も豊富で大人でした。本当の娘のようにたくさんお喋りをして、あっという間に過ぎた5日間。今年2月にはスノーモンキーを見に再び長野を訪れ、コロンビアの友達3人と共に我が家に一泊して行きました。そのうちの一人が朝ジョギングに出かけ迷子に……というハプニングもありましたが、陽気な彼らと、夫も私も本当によく笑い、また新たな出会いのあった嬉しい再会でした。

最近受け入れたスイスのダニエル君。男子学生はあまり受け入れたことがなかったのでちょっと心配しましたが、日本人の本音と建前について熱く語り、気が付いたら夜中の1:30……さすがに翌朝はきつかったのですが、これも楽しい思い出です。

また、美味しい料理を作ってくれた韓国の留学生達。一緒に台所に立ち、こんなにあたたかいご飯は日本に来て初めてだと喜んでくれました。私も、家族揃って賑やかに食卓を囲む幸せを改めて感じさせてもらいました。昨年の韓国旅行では5人の留学生と再会。皆忙しい中、空港までの出迎え・市内観光・夕食と、とことん付き合ってくれ、韓国の若者の温かい情に触れることができました。帰国後の就職活動は厳しいようですが、二人からは、「お母さん、お陰様で就職先が決まりました！」というメールが届きました。他の留学生達も努力が報われますようにと願うばかりです。

全ては書ききれませんが、国が違えば文化も違い、新たな発見が楽しかったり、また、びっくりしたり……どこの国であれ、人を理解する過程において人を許すことも時には必要になります。私自身がホームステイを通して大切な勉強をさせていただいているのかもしれない。

二人の娘も働き始め、留学生と共に過ごし協力を得ることも難しくなった今、夫婦二人の家庭でホームステイを楽しんでもらえるのだろうか。日本史が苦手な私に日本の文化を伝え、日本を理解してもらうなんてできるのだろうか……と考えることもあります。しかし、私も娘の留学を通してわかった親の思い……まずは健康で安全に、そしていろんな出会いの中でいろいろな事を感じとって帰ってほしい……その思いは今も変わりありません。

大きな事はできませんが、自分が他国でもらった温かい心を留学生に少しでも伝えられたら、それをまた彼らが持ち帰り理解の輪が広がったら……そういう思いで続けていきたいと思っています。

VOICE

6. 留学生の声

6-1

「よく学び、よく遊べ」を実践できる大学、 外語大！で学ぶ幸せ

日本課程2年 ライ・レアン
(マレーシア)

私はマレーシア出身の華僑である。勉強嫌いな私は高校卒業した後、直ちにシンガポールへ向かい、社員として3年間ほど働いていた。考え方が未熟ですぐに仕事に対して飽きてしまい、それと同時に、競争が激しい現実社会においては、少なくとも大学の卒業証明書がいかに重要であるかを気づいたのである。

そして、私は初めて大学に目を向け、日本語に興味を大いに持っている自分がまず考えた留学先は日本である。という経緯で2007年の4月に、初めて憧れていた日本の土地を踏み、自分の人生に一つ大きな転換点であると信じて留学という旅に出たのである。

やっとなら来たとはいえず、日本語についてまるで白紙のような私は、日本人との間に壁によって妨げられているようであった。だが、こういった難関があったからこそ、逆に日本語を身につけたいという強い気持ちが湧いてきた。日本語を勉強すればするほど

日本語の美しさと日本文化の魅力を発見し、発見すればするほど勉強がやめられずにいた。

この時、頭にある念頭が浮かべてきた。日本語が好きならば、「将来、日本語を使って事業を興せばいいのだ」と、初めて人生の目標をたてることができた。私は将来、マレーシアで日本語を教える塾と日本への留学する仲介会社を創りたいと思った。

人生の目標に成功させるためには、まず日本語をしっかりと身につけなければならない。

中国語の諺では、「功欲善其事,比先利其器」があるが、つまり、日本語で仕事をしたいであれば、全日本中最も名声が高い、日本語の研究が一番進んでいる学府を選ばなければならないということである。もちろん言うまでもなく、私が選んだのは、国立の東京外国語大学である。

難関大学とされる東京外国語大学は、日本語でさえきちんと話せず、書けずにいる私にとって、あまりにも奇跡を起こそうとしているように見えていた。もちろん初回は不合格の銃弾に打たれたが、私の信念はちっとも動揺していなかった。なぜならば、東京外国語大学に入ることは、私の人生を賭け金としてかかっているからだ。「俺には外大以外じゃ嫌だ」という信念を固めたのである。

つい、2度目の試験に合格し、東京外国語大学の学生証を貰った時、自分の夢に一步邁進したという気持ちだった。そのとき、奇跡は不可能のために存在するのではなく、その不可能という説を打破するために存在するのだと思った。

いよいよ桜が満開する季節の中、大学の生活が始まった。東京外国語大学を気に入った理由はただ日本語教育の最高峰なだけのみならず、この大学のキャンパスでは豊かに生い茂っている緑が大自然を感じさせてくれ、開放感のある大きな広場が「自由」を象徴し、立派な建築を誇る講義棟と図書館などが周辺に林立し、大自然でありながらモダンな建物というコンビが、常に学生にとって「学校へ行きたい」という原動力であるに違いないだろう。これが東京外国語大学に選んだ要因でもある。

また、大学自体の環境が良いだけでなく、日本語に対して熱意を持っている留学生が大勢いる。さらに、帰国子女や外国語が非常に能力を持っている日本

人も少なくない。

ある日、私が食堂で食事をしようとしていた時に、後ろからフランス語やスペイン語が飛び交っている声を聞こえた。留学生であるかと思いきや、おしゃべりしているのは日本人だった。そのときの私はまるで誰かお偉いさんを見たかのように、心から尊敬せずにはいられずにいた。このような立派な大学で勉強できることに誇りを持っている。そして、周りに能力の高い人に囲まれれば囲まれるほど、無意識に自分の能力を向上し、充実しなければならないという意識が芽生えてきたのである。つまり、東京外国語大学にいと、いわゆる「良性競争」が繰り返されて循環するということがある。

外大で日本の大学であるが、実際には国境を越えて、グローバルな言語、異なる文化が溢れ、多国籍の学生が大勢いる国際的な社交圏とでも言えよう。グローバルな人間を実質的に養成する学府である。

日本語を専攻している私は、日本語をいかに他人に教えるのかということのみを勉強するかと思ったら、実質的には異なっていた。日本語はもちろん、日本の文学、日本の歴史、日本の文化、日本人の思想なども勉強することもできる。それ以外にもほかの外国語を副専修として学ぶことができる。

最初、私の日本人クラスメイトたちが、なぜ日本語を大学で勉強するのかをどう考えてもわからなかった。しかし、彼らに聞いたら、「日本人として、美しい日本語を学び、この魅力のある日本語を世界の人々と分かちあいたいから」と答えてくれた。日本人は自分の言葉をそれほど愛しているんだ、なんて素敵なことだろうと思わずにはいらなかった。

さらに、国立大学に入ったらひたすら勉強するしかないだろうと思ったが、本当は全く違ったのである。東京外国語大学では有名な「外語祭」がある、外語祭では、26の語科により26カ国の料理を出店し、ほかの大学とは違って、一気に26カ国の味が味わえてしまうのだ。また、26カ国の語劇で充実している外語祭は、東京外国語大学の一番主要かつ魅力的なイベントである。

また、サークルの項目も豊かである。運動系から音楽系、さらに言語系や多文化コミュニケーションなどのサークルがたくさんある。

よい環境の中で勉強に専念しながら、サークルを通してストレスを解放させてくれ、心を安らげてくれるイベントは一年中に途絶えないほど沢山ある。まさに、勉強の中から遊ぶ、遊ぶと同時に勉強するという大学こそ、東京外国語大学である。

6-2

日本で働き出して約3ヶ月

日本語科 (2011年卒業) 金 保庚
(韓国)

私は2011年3月に外大を卒業し、現在日本企業で働いております。震災のこともあり、一時期日本に残るべきか戸惑いもありましたが、6年間日本で勉強したことを生かすべく、日本に残ることにしました。

確か、現在留学生の中では、卒業して帰るか、日本で就職するか迷っている方が多いでしょう。ということで、働きだして3ヶ月間の自分の話を皆様に伝えていきたいと思えます。

私は、東京営業部に配属され、主に担当しているのは国内営業ですが、たまたま『7月外国人留学生セミナー』の企画をしたりしています。

会社の定時は9:15~17:45ですが、実際は23時に家に戻ってきます。残業がひど過ぎます。職場では主に日本語を使っており、回りからも特別に外国人として扱われること一切ありません。給料をもらう以上外国人だろうが、日本人だろうが売上を出してという感覚と言いますか。(笑)

しかし、幸いにも私が配属されている2部4課は、とてもいい課長と先輩がいます。特に課長は自分自身が課長にも関わらず常に部下からも学ぶ姿勢を持って、一人一人お互いに納得のいくまで話し合い、接点を見つけようとしています。本当に素晴らしい課長です。社内でも一番いい上司として評判で、その方が私の課長になったので本当によかったです。

このように、会社で平日9時15分~23時まで、いい課長と先輩に囲まれて多忙な日々を過ごしているので、最近は毎週金曜日の夜を一番楽しみに待ちながら仕事を続けています。もう日曜日の夜になるとまた月曜日が始まるのかと思ったら悲しくて悲しくてしょうがないです。(笑)なので、その悲しみを抑えるため

に、土・日には趣味の時間を充実させ、たっぷり楽しんで休み、100%充電してから月曜日を迎えるようにしております。

以上、働き出して約3ヶ月間の感想でしたが、今後、日本で就職したい外国人留学生の皆様、色々大変なことに直面すると思いますが、頑張ってください。応援します！



VOICE

7. 会員の声

7-1 新幹事からひとこと

もし留学生支援の会の新幹事がドラッカーの『マネジメント』愛読者だったら

新幹事 別府 千佐子

皆さま、近頃話題の『もしドラ〜』の元になる本、ドラッカーの『マネジメント』をご存知でしょうか。私はロマンチックな本だと思い、以前から愛読している変わり者なのです。

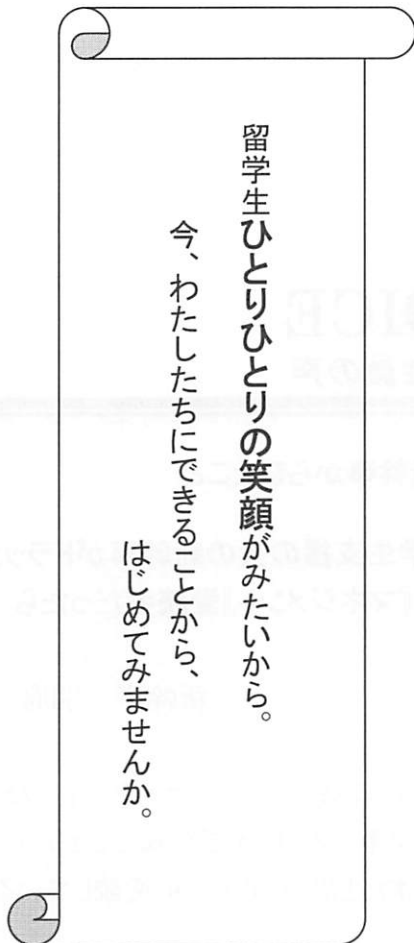
ドラッカーは、「マネジメント」には三つの役割があると説いています。

1. 自らの組織に特有の使命を果たす。
この解釈は、「留学生を支援すること」に尽きるでしょう。
2. 仕事を通じて働く人を生かす。
留学生・会員・在校生・地域の方・大学組織すべてを生かす働きをして自分も生かされる。
3. 自らが社会に与える影響を処理するとともに、社会の問題について貢献する。

ドラッカーの提言はすべてが幸福に向かうよう導かれるのですが、実行者は責任感と使命と夢を持ってあくまで自力。それなのに、社会という中にあなたも知ら

ぬ間に引き込まれているのですよ。

さあ、一緒に留学生支援の会ワールドで活躍しましょう！



ご意見、感想など、会報への
投稿募集 どんどん
お寄せ下さい

当会へのご意見、ホームページやイベントに関するの感想文など、会報への投稿をお待ちしております。
お気軽にお問い合わせ下さい。

ご入会、ご寄付
ご協力いただき、ありがとうございます

協賛会員

(平成23年2月5日～23年5月31日)(敬称略)

市川能人、稲熊靖、梅村彩貴子、中村博志、圃中陽子、半嶺道男

新規加入者

■一般会員

(平成23年2月5日～23年5月31日)(敬称略)

- | | | |
|--------|-------|-------|
| 権田翼 | 杉田由之 | 田中良典 |
| 近藤和子 | 杉原慶美 | 田中涼子 |
| 権藤加奈 | 杉本梨菜 | 谷口早紀 |
| 近藤雅幸 | 杉本亘 | 谷修一 |
| 西城優子 | 鈴木和明 | 田原悦子 |
| 斎藤友美 | 鈴木志保乃 | 多良奈那子 |
| 斎藤秀之 | 鈴木洵仁 | 千野英樹 |
| 齋藤睦 | 鈴木颯 | 対馬俊彦 |
| 酒井玲奈 | 鈴木哲夫 | 辻村真利奈 |
| 坂本亜里沙 | 鈴木知行 | 土田力 |
| 坂本美智子 | 鈴木正則 | 土永恭子 |
| 作久間修 | 鈴木理紗子 | 土屋晶子 |
| 作山秀美 | 鈴木龍蔵 | 土屋優 |
| 佐々木このみ | 澄川勇治 | 土屋雄輝 |
| 佐々木史織 | 角幸多郎 | 都築佑樹 |
| 佐々木峻也 | 妹尾寛仁 | 津端友子 |
| 佐々木智香子 | 添田樹紀 | 坪井利旺葉 |
| 佐々木華恵 | 高尾昌樹 | 坪田吉民 |
| 佐藤恵理子 | 高木晴秀 | 手塚秀樹 |
| 佐藤颯希 | 高久保直子 | 寺本幸平 |
| 佐藤武 | 高崎康史 | 富樫すみれ |
| 佐藤光 | 高澤成司 | 徳田恵莉香 |
| 佐藤弘幸 | 高田椋吾 | 徳永敏文 |
| 佐藤真理子 | 高橋麻衣 | 戸田治 |
| 佐藤芽生 | 高見信太郎 | 殿村洋文 |
| 佐藤結香 | 瀧岡結 | 飛永貴大 |
| 佐渡詩乃 | 田口晴三 | 渡真利菜々 |
| 篠原桃子 | 竹内彩 | 富山愛貴人 |
| 志崎正博 | 竹内あゆみ | 豊嶋悠紀 |
| 島崎千明 | 武内祐子 | 豊田宏 |
| 島田潤一 | 滝口萌衣 | 永井美来 |
| 下田晴盛 | 竹田真悟 | 中川友理江 |
| 下山茂美 | 田代友美 | 中沢功 |
| 城之内みさ子 | 辰巳芳明 | 中島繁 |
| 白井友子 | 館山昌子 | 長島真以於 |
| 白石俊治 | 田所睦美 | 長谷温香 |
| 白木由美 | 田中綾音 | 中西紗奈里 |
| 杉浦毅朗 | 田中薫 | 永延良太 |
| 杉岡紫朋 | 田中想太 | 中村衣里 |
| 杉下由有子 | 田中雅則 | 中矢拓 |

名倉悦子
 奈佐むつみ
 西井寧宏
 西門幸美
 西野舞
 縫田克夫
 野際夏妃
 野口雅貴
 野田勝
 野辺詩織
 長谷川茂樹
 畠山卓也
 畑美里
 服部匡朗
 花岡範明
 馬場拓也
 林朴
 林雅美
 林恭裕
 原幸一
 原愛実
 半澤果奈
 樋口菜乃葉
 土方禎雄
 日向綾子
 平塚大地
 深谷克巳
 福島夢乃
 福田萌
 藤井綾子
 藤井里咲
 藤岡慎太郎
 藤澤大智
 藤塚梨沙
 船田美里
 古川侑幹
 古澤拓
 古橋櫻子
 別府千佐子
 細田雅夫

堀文香
 本田麻衣子
 本田ゆみ
 正木みゆ
 増田百子
 増村富康
 町田峻
 松井裕子
 松尾恭吾
 松原義明
 松村幸弘
 松本千絵
 松本洋明
 丸山凌平
 三井景介
 三雲晁雄
 御法川将志
 宮内美幸
 宮崎猛
 宮澤翔
 宮原拓也
 宮原芳之
 美淋加代子
 向田加奈
 村岡愛理
 村上美由紀
 村澤敏美
 村田英璃
 村田由布子
 目崎銀兵
 森川彩花
 森田保彦
 盛田義隆
 森眞由子
 森山仰子
 八木眞央
 八島香織
 矢島瞳
 矢作衣里
 山浦政彦

山岸千夏
 山口文子
 山口久美子
 山崎竜成
 山崎仁子
 山下亮子
 山城範子
 山田晃
 山本栞
 山本紀子
 山本広志
 結城ちひろ
 結城ゆかり
 柚木淳佑
 湯原沙織
 横山浩司
 吉池清
 吉岡聡子
 吉田楓
 吉田悟巳
 吉田芳和
 吉野恵
 四津啓
 李斯蓓
 若松誠
 和田太郎
 渡辺沙也香
 渡邊貴司
 渡辺俊幸
 渡辺英貴
 渡辺まゆ美
 渡邊裕介
 渡部摩耶
 藁谷信子

会員寄付者

■ 一般寄付

(平成23年2月5日～23年5月31日)(敬称略)

市川能人、井手真知子、梅村彩貴子、太田寧子、
 大山幸房、岡田亨嗣、奥澤清子、鹿嶋俊文、儀間ひな子、
 倉持健二、古石敏昭、小島克巳、小見山郁子、此松範子、
 佐藤桂子、志崎正博、瑞應寺(中島剣山)、菅原恵美子、
 頼母木久代、田山のり子、中村博志、成瀬よし子、
 箱崎洋子、橋本文男、濱野隆、林恭裕、古川早紀子、
 正木みゆ、水野ゆかり、宮井捷二、宮嶋菜緒、村井峰夫、
 森山仰子、柳川三郎、山本栞、渡辺恵子、渡辺まゆ美
 万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、
 当会までお知らせ下されれば幸いです。

平成23年度 会費納入のお願い 随時受付

5月31日現在
 会員数:1,565名

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込くださいます様、お願い申し上げます。

※ ひとりでも多くの方々の早期納入のご協力をお願い致します。

※ 振込用紙にメールアドレスをお書き添えいただければ、今後、当会の各種イベントなどの情報をお届けしていきます。

一般会員:年会費 3,000円
 協賛会員:年会費 20,000円

ACTIVITIES

8. これからの活動

1

秋期(10月期) バザー開催

10月19日(水)～10月20日(木)

場所:国際交流会館2号館交流ホール

ご協力いただき、留学生に毎回大変好評いただいております秋期(10月期)バザー開催に向け、**別紙ピンク色の印刷物**をご確認の上、ご準備、ご手配いただきたくお願い申し上げます。

バザー用品受付:10月11日(火)～10月17日(月)

事前の物品仕分けや当日のお手伝い参加可能な方は、当会または下記までご連絡下さい。

042-330-5183 (梅田 火、水、金のみ)

幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成23年3月12日(土) 中止

平成23年5月14日(土)

平成23年6月12日(日)

HOME VISIT & STAY

♪ ホームビジット、ホームステイ受け入れに関心のある方は是非、当会にお問い合わせ下さい。

首都圏などでのホームステイ受け入れに加えて、地方の方々のお申し出もお待ちしています。といいますのは、留学生たちは、日本の地方の文化に触れ、生活してみたいという希望もまた多いからです。

留学生支援 会員の皆様ひとりひとりが

留学生の笑顔をつくります！

<お問い合わせ先>

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
東京外国語大学 留学生課気付(梅田、谷川)

TEL: 042-330-5183、5759

FAX: 042-330-5189、5762

E-mail: tufs-issa@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

©Copyright 2011, TUFSS International Student Support Association

東京外国語大学 留学生支援の会

No.38
年3回発行

Since 1999

会報

留学生の声 「一日でも素晴らしい体験」「世界のことばで広がる世界」
(10、11ページ) 「心待ちにしていたバザー」他…(14ページ)

Pick Up Event 2011

♪この秋登場、新企画 東京下町文化体験ツアー11月26日(土)予定
♪一年に一度、“国際交流のタベ”で留学生と交流しませんか!
留学生のそのパワー、どうぞお楽しみに! 12月16日(金)(ともに詳細は20ページ)

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5759 FAX 042-330-5762

E-mail tufs-issa@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

INSIDE

Page 1.	1. 巻頭言
Page 2.	2. ご挨拶
Page 3.	3. 活動報告
	3-1 各国文化紹介 ～お茶とお菓子を通して
	3-2 歌舞伎鑑賞教室と懇親 茶話会
	3-3 国際交流の日
	3-4 七夕茶会
	3-5 ふじのくに・留学生開国 ツアー
	3-6 子ども見学デー
	3-7 多磨駅前商店会祭り
	3-8 府中市紅葉丘 「地域文化祭」
	3-9 10月期バザー
Page 15.	4. ホームビジット& ホームステイ
Page 16.	5. 留学生の声
Page 19.	6. これからの活動

FOCUS

1. 巻頭言

ANCORA IMPARO

留学生日本語教育センター
准教授 宮城 徹

私は30代半ばになってやっと留学することができた。学生時代から留学に憧れてはいたが、体が弱く、長期の海外暮らしをする自信がなかった。能力も平凡なので、勤務先からの派遣とか奨学金を得るなどということは想像もしなかった。体質改善の方法模索と留学のための貯金などをのろのろとしているうちに30歳を過ぎ、所帯も構えてしまった。当然のように、留学とその後の就職はセットで考えざるを得なかったし、留学生活も「キャンパスライフをエンジョイ」などという余裕はなかった。予習、授業、予習、授業、合間に非常勤講師や家庭教師のアルバイト、試験にレポート、とにかく暇さえあれば図書館や家で文献を読み漁り、ない知恵を絞り出しては書く、そんな毎日だった。

日本での学生時代には、学業平凡の単なる変わり

者だったが、どういうわけか留学先オーストラリアの大学院では、私の成績表に HD (優) が並び、コース修了後、現地で就職もスムーズに進んだ。その後 40 歳を過ぎてから、博士号研究を始めることになるが、3 大学から豪州政府奨学生としての入学許可が来た。日本ではありえないことの連続に、社会がその構成員に期待する資質とその評価は、その場所によって大きく異なるのだということを実感した(もちろん、それなりの努力をしたのは確かだが)。

さて私の借家には、新品は何一つなかった。成績不良で進級不可あるいは現地で就職できずとなれば、即刻帰国して就職活動となるので、新品を買う気にはなれなかったし、その経済的余裕もなかった。日用品はガレージセールやリサイクルショップで少しずつ買い足していた。留学した年に生まれた長男のベッドも乳母車もチャイルドシートもおもちゃも、みな近所の人たちや大家さんが「買う必要はないよ」と貸してくれた。医療通訳者が無料で派遣されてきたこともあった。異国のコミュニティから受ける親切は涙が出るほどうれしかった。その時の感謝の気持ちが今の私の仕事の原動力だと言っても過言ではない。

ANCORA IMPARO とは私が留学した大学の校章に書かれている言葉で、“I am still learning” という意味だそうだ。当時の私はこの言葉にとっても勇気づけられたし、今でも私の座右の銘となっている。

ホームビジット、ホームステイ家庭の募集

2012 年 1 月 11 日から 2 月 10 日の約 1 か月、ニュージーランドとオーストラリアの大学生 25 名が、本学で日本語集中プログラムを受講します。平日午後と週末はできるだけ日本人コミュニティとの交流に力を入れたプログラムを計画中です。現在、金～日に留学生が訪問(ホームビジット)あるいは宿泊(ホームステイ)させていただけるご家庭を探しています。ご協力いただける方は、支援の会事務局にお申し出いただけますと幸いです。



2. ご挨拶

東京下町文化体験ツアー？！

会長 中嶋 洋子

3 月には東北大震災の強烈な被害に見舞われ、その後始末もままならぬ中、日本列島は台風 15 号による水の恐ろしさに遭遇し、今年は大自然の恐怖とどう対峙すればよいのか、感じる事、考える事の多い年となりました。

台風の被害を受けられた皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

さて、当会の活動も後半に入り、23 年度の第 2 回各国文化紹介——お茶とお菓子をとおして(留学生と日本人学生との交流会)、国際交流の夕べ(大学と共催)、国会議事堂見学に替わる次のような大きなイベントが次々と計画されています。それぞれの詳細は、これからの活動の欄をご覧ください。

既にご報告しましたように、昨年から国会見学の方法が多少変わり、紹介者の有無に関係なく人数(かなり大勢)がまとまり次第、内部を見学、丁寧な対応がありませんので、企画の見直しを次のように考えました。

“東京下町文化体験ツアー”と題し、隅田川クルーズ、浅草寺参詣、仲見世通り散策、江戸東京博物館見学、ちゃんこ鍋を囲む懇親会、とややハードスケジュールを計画、実行することにいたしました。このコースについて良いアイデアをお持ちの方はお知らせくだされば幸いです。

日本人学生も参加を予定、留学生との交流にもなると思います。その結果については次号でご報告させていただきます。

各イベントとも、会員の皆様の参加も可能ですので(人数に制限あり)、早めに当会事務局までご連絡ください。

別件ですが、会報誌上の留学生の感想などの文章に関して、皆様のお考えをお聞かせください。

留学生の日本語表現について、幹事会では、文

意が理解できない場合のみ、最低の訂正を加え、表現方法については、多少の問題はあろうとも、本人の日本語をそのまま大切に扱っています。

(以前、ある会員の方から、正しい日本語表記を留学生に教えるべきでは、とのご意見で、丁寧に訂正くださったことがありました。)

さらにもう一つ、留学生の英語の文章について、最近では、翻訳なしでそのまま掲載することにしています。

その理由は、スペースを割かねばならないこと、翻訳にはそれなりの労力が必要なこと、当会の会員の皆様なら、この程度の英文を解することは容易でいらっしゃる、などなどです。

いかがでしょうか？会員の皆様のお声を聞きたいと思います。

REPORT

3. 活動報告

3-1 各国文化紹介～お茶とお菓子を通して (留学生と日本人学生との交流会)

日時： 6月15日(水) 11時50分～

会場： 校内アゴラグローバル カフェ

所感： 留学生達は熱心に取り組み、出身国の紹介もとても力を入れていました。

パワーポイントを使つての発表は画面も大きくわかりやすかったです。

前日になって発表時間が10分から5分へと変更になり、最初は戸惑っていたが、上手にまとめあげ、無事終えることができ良かったです。

今回は発表留学生と担当者が直接何度も相談し、材料・手順などを決めることができたのでスムーズに準備が進みました。インドのサモサ・カチョリは揚げ物なのでやはり手間がかかりました。

初めてアゴラグローバル カフェが会場になったこともあり、当日は学長先生も参加いただき、留学生が大喜びをしていました。発表留学生はみな民族衣装に着替え、華やかな雰囲気の中、日本人学生ととも食

べ物や衣装の話で盛り上がっていました。

会場が講義棟に近く便利で飛び込みの参加者も多かったです。

(幹事協力者 百瀬 記)

当 日 の プ ロ グ ラ ム

♪ イラン…ファテメさん担当 ♪

甘いお菓子:ギャズ・ソーハン・バグラワ
飲み物:サフランティー、シナモンティー

♪ インド…ヴァルーンさん担当 ♪

スパイスの効いた甘くないお菓子
食べ物:カチョリ サモサ
飲み物:チャイティー

♪ ベトナム…ダイ・タイ・ミンさん担当 ♪

バン ドウ サン (緑豆の甘いお菓子)
飲み物:練乳入りベトナムコーヒー

♪ 軽いランチ (当会準備) ♪

巻き寿司・いなりずし、サンドイッチ

各国独特のお菓子やお茶、軽いランチを食べながらパワーポイントによる各国の文化紹介、3ヶ所に分かれてのお茶、お菓子の紹介。

まとめあげ、ハプニングあり、 結果、賑やかなイベントに！

大学院研究生

ファテメ・ガラファーニ (イラン)

日本に来て1ヶ月ぐらいたった5月頃、留学生課に行った時、自国の紹介を頼まれた。せっかくのチャンスなので、積極的に国のことを紹介しようと思った。イランの私のほか、インドの友達とベトナムの人3人で紹介することになった。イベントが6月15日(水)11:50～14:00の予定だった。

その前に2回ぐらい、東京外国語大学留学生課の梅田さんと東京外国語大学留学生支援会の皆様と集

まって、準備のことを話し合おうということになった。一番最初に三ヶ国の方は、それぞれポスターを用意し、出来る限り民族衣装を着て、最初の10分は同時に国のことを紹介し、その後は国のお茶とお菓子をもてなすという話があった。同時に発表すれば3カ国のことを聞けないので、せっかく国のことを紹介するのなら、来場者がそれぞれの国のことが聞けるように、同じ時間ではなく、順番にパワーポイントやポスターなどを用意し、発表したほうがいいのではないかと提案したら、同意を得た。それぞれ15分の発表を準備するようになった。

そしてお茶とお菓子は何をを用意するかということも決まった。私はお茶がサフランティとシナモンティの二種類、お菓子は、ソーハン(ピスタチオ入りクッキー)、ギャズ(ピスタチオ入りのヌガー)とバグラワーの3種類の甘いお菓子を用意することになった。やはりすべてはイランのもので日本の普通の店で売っていないので、イランの店に注文した。パワーポイントの方は、3日間ぐらい時間をかけて、15分で発表できるようなイランの紹介を準備した。

6月15日の前日(火)に2回目の準備の集まりがあった。用意したものを持って行っていろいろ確認した。そこで翌日のイベントで、3か国の方がそれぞれ15分ずつ自国を紹介したら全部で45分になって、長くなるし退屈かもしれないので、発表はなるべく短く5分に絞るように言われた。

今考えてみると、確かにそうだと思うが、3日間がんばって用意したパワーポイントを、一日前に省略するように言われたのは大ショックだった。しかし、言われたとおりに大事なポイントだけにしぼって発表した。

情報はもちろん留学生課によって用意されたチラシで伝わっていたし、私たちも友達たちをたくさん招待した。

衣装を貸してくれる友達は11時30分に持ってくる約束したが、運の悪いことに彼女が電車を間違えて時間に遅れてしまった。

みんなが集まっているのに、私はまだ民族衣装を着ておらずイライラしていた。発表の順番はベトナム、イラン、インドで、私の出番になる時まで届くのかなと思っていたが、駄目だった。仕方がなく、普通の服で発表しようとし、ちょうど民族衣装のことを説明している時、

民族衣装を着ている彼女が後ろに現れた。私に貸すのに間に合わなかったので、見せるために着てくれたのであった。発表が終わった後で私は民族衣装に着替えて来場者と写真を撮り、沢山撮った。

ベトナム、インド、イランの伝統文化の紹介、お茶とお菓子のもてなし、そして支援会によって用意されていた美味しいお寿司やサンドウィッチで、賑やかに盛大にイベントが行われた。東京外国語大学生だけではなく、様々なお客さんが集まって、いろいろ質問し、説明を求めていた人が大勢いて、とても楽しい日だった。

これで各国と文化交流を通してお互いの理解を深めながら、楽しい時間を過ごすのはとても良かったと思う。



(↑上:当日は亀山学長も駆けつけ、留学生たちも一生懸命アピールしました。下:イランのプレゼンテーションの様子。広い会場に多くの方々が集まり、少し緊張しました!と留学生。)



(↑上:インドのお茶をふるまう留学生。下:ベトナムの紹介をする留学生。)

3-2 歌舞伎鑑賞教室と懇親茶話会

日時: 6月26日(日) 14時~18時
 場所: 国立劇場、ホテル グランドアーク半蔵門
 参加者: 留学生28名、日本人学生14名
 幹事8名
 内容: 解説 歌舞伎の見方
 歌舞伎鑑賞 義経千本桜
 懇親茶話会 グランドアーク半蔵門にて
 ケーキとコーヒー・紅茶をいただきなが
 懇談。

所感: 歌舞伎の歴史、演出の工夫や見どころなど、スライドを使って、またわかりやすい言葉での解説に時々わらいが出るくらいリラックスし、これから始まる歌舞伎への興味・関心がより高まった様子でした。

歌舞伎の幕が開き、舞台が一変して思わず歓声があがり、食い入るように舞台を見ている姿も見られました。留学生には言葉が難しいところもあったように思ったので、懇親会で話題にしたところ、「歌舞伎について大学で学んでいたの、そんなに難しくなかった」「舞台や衣装が素晴らしかった」「歌舞伎が見られて最高!」とそれぞれに楽しく鑑賞できた様子がうかがえ良かったです。

懇親会では、留学生、日本人学生ともに普段の生活のことや、お互いの国のなどについて話が弾み、終了予定時間を超過するほどでした。よい交流の機会がもてたと思います。

残念だったのは、集合時間に来ていない学生に幹事が分担して連絡を取りましたが、連絡が取れなかったり、忘れていたりで7名の留学生が結果的に不参加となってしまいました。幹事会で事前に確認の連絡をした方がいいのではないかと、という意見が出ましたが、留学生との電話連絡がいかにか大変か、私たちは既に経験済みですので、決定には至りませんでした。

時間と手間がかかりますが、必要性は次年度の課題となりました。なお、とりあえず参加費(現在500円)を、実験的に1,000円にして、参加者(事前キャンセル連絡者を含め)当日500円返金をすることになりました。

(幹事 直島 記)

3-3 国際交流の日

行事名: 国際理解事業(中学校の国際理解教育への留学生の派遣)
 日時: 2011年7月3日(土) 午前9時30分
 京王線若葉台駅集合
 訪問先: 町田市立真光寺中学校
 引率者: 別府(1名)
 派遣留学生: 3名予定(ウズベキスタン・インドネシア・ベトナム)

京王線若葉台駅で待ち合わせましたが、当日体調が悪くなった中国の王さんから連絡があり、1名は行事に参加できなくなりました。事前に準備をして、中国について紹介するのを楽しみにしていたので、とても残念な様子でした。

他の留学生3名と引率1名は、タクシーで真光寺中学校へ向かいました。

真光寺中学校の「国際交流の日」への参加は、昨年に続き2回目で、担当の飯田由香利先生は、「この行事は、生徒以上に楽しみにしています。」とおっしゃって、東京外大の留学生との交流も非常に心待ちにしてくださっているのがよくわかりました。また、受付の係や、昼食の手配などをしてこの行事を手伝っておられたPTAの方々も、恒例となったこの行事を温かく支えておられました。

今年で24回目となる「国際交流の日」のスローガンは、Ring the World ～今必要なのは世界がひとつになること～

当日も、事前学習会から始まり、各学年でテーマを決めた「交流・体験学習」、午後には全体会や発表会がある、丸一日国際交流の日です。

1年生のテーマ「アジアの国を知ろう」

2年生のテーマ「日本を知り、世界とのつながりを知ろう」

3年生のテーマ「世界の子どもたちの今を考え、自分たちができることを考えよう」

東京外国語大学の留学生は、1年生の「アジアの国を知ろう」のテーマの中で、事前に希望して5クラスに分かれた内の2クラスをそれぞれ担当しました。

★ウズベキスタンの紹介(トフタミルザエヴァ・マシフラホンさん) <1階の被服室> きらきら輝く金色の飾りも眩い民族衣装に着替えたマシフラホンさんは、用意したパワーポイントの準備ができるまで、生徒たちに「ウズベキスタンがどこにあるか知っている人いますか?」と、持ち前の明るい笑顔で話しかけ、その後も次々に用意してきた話題を投げかけ、少しでも多く自国を知ってもらおうという意欲が最後まで伝わる、元気な交流会となりました。

★インドネシアの紹介(リナルディー・ハーレー・ウィスマスレンさん) 明るいお兄さんのようなウィスマスレンさんは、用意してきたパワーポイントの資料を使って、美しいインドネシアの島々の紹介を熱心に行っていました。

★ベトナムの紹介(ダン・タイ・ミンさん) <4階1年3組> 鮮やかなベトナムの民族衣装‘アオザイ’に

着替えたミンさんは、用意してきたベトナムの国旗や、大きなベトナムの地図を使って、ベトナムの歴史や民族、習慣、言葉、共産党一党の国の人々の生活など、日本とは違うベトナムの国を紹介し、時折生徒たちに質問やクイズを出しながら、生徒たちからの質問の時間も十分にとり、約90分という時間を一人で熱演してくださいました。

最後に、以前もこの学校に来て、先輩にあたる生徒に話をしたこと。日本人の人はもっと自分の意見を外に表してコミュニケーションをとりましょう。と、生徒たちへメッセージを残していきました。

各教室での分科会終了後、クラスにいた国際交流委員の生徒から、お礼の言葉とメッセージカード&お土産をプレゼントされ、昼食を用意していただいた図書館まで案内してもらいました。

授業終了後にも留学生に質問に訪れる生徒もいて、真光寺中学校の生徒にも楽しくて意義のある時間であったと思いますが、留学生たちにとっても、事前に準備した自国紹介を、実際に生徒の前で披露したことで、とても良い時間と経験を持たれたようです。帰りの道中も、生徒たちの話や自国の中学校との違いなどで話は尽きないようでした。

午後に、大学の方に戻らなければならない留学生もいて、昼食に用意していただいたバイキング料理も慌しくいただいて、インドネシアのウィスマスレンさん以外は、またタクシーで若葉台駅まで帰りました。

真光寺中学校では、午後には全体会、交流・体験授業の発表会、邦楽部による演奏、各学年の報告があり、最後はアンケートをまとめて終了のようでした。

(幹事 別府 記)





ベトナムのイメージは？！

大学院修士課程 1年
ダン・タイ・ミン (ベトナム)

私は、7月2日(土)に実施された町田市立真光寺中学校の『国際交流の日』に教師として参加しました。「アジアを知ろう」をテーマにして、国際交流の日が行われました。全校生徒の前での自己紹介で、皆さんの笑顔を見られて、嬉しかったです。その後、「ベトナムを知ろう」の教室に移動して、1年の生徒を対象に講義を行いました。ベトナムの伝統的な衣装(アオ・ザイ)を着ながら、授業をやってきました。

授業が始まる前に、皆さんにベトナムについて何か知っていることはないかと聞いてみたら、事前に色々調べてもらっていたので、非常に感動しました。

異なる文化に対して、生徒たちは強く興味を示し、いくつかの質問がありました。一番興味を持ってくださるのは「ベトナムの果物、食べ物」だと思います。食文化においては、共通点もあれば、相違点もあります。日本の主食もベトナムの主食も「お米」なのですが、麺類は日本の「うどん」や「そば」などは「小麦」から作られているが、ベトナムの「Pho」や「Bun」などは「米」から作られています。

日本とベトナムの共通点は食文化の分野だけでなく、国民性として同じところが結構あるのではないかと思います。勤勉で、思いやりのある人が多いと思われまます。

「ベトナムについてのイメージは何ですか」と生徒たちに聞いたら、一人の男の生徒さんは「町でよくしゃべる人」というイメージだそうです。確かにベトナムの市場に足を運ぶと、皆さん、特に女性たちはしゃべっ

ているとをよく見かけています。

国際理解教育の日を通じて、生徒たちはベトナムの文化と触れ合い、親しみを感じるようになりました。

皆さん、本当にありがとうございました。

Great experience!

3-4 七夕茶会

夏の日本文化体験 ～七夕茶会～

フランス語専攻 2年

(裏千家茶道倶楽部) 高木優美

7月7日は一年に一度の七夕です。それにちなんで、毎年裏千家茶道倶楽部では留学生を対象に七夕茶会を行っています。そこで今年も7月5日(火)に七夕茶会を行いました。

七夕茶会では通常の茶会と違い、留学生の方たちを対象に気楽にお茶と日本文化を楽しんでもらうことを目的としています。今年は27名のお客様が来ていただきました。

和室には部員がとってきた笹を飾り、短冊に願い事を書いたりおりがみをしたりして夏の日本文化に触れつつ留学生との交流を深めました。茶道体験も行い、留学生の方たちに茶道に興味を持ってもらえるよう、工夫をしています。また、七夕茶会でのお点前は夏ならではの「立礼(りゅうれい)」という形をとりました。立礼では、亭主、半東、お客様たち全員が椅子に座りません。正座をしないということで正座に慣れていない留学生への心遣いのつもりもありましたが、留学生の皆さまは茶道に関心のある方も多く、中には経験者の方もいて、いつもの正座で行う茶道と違ってとても新鮮だったとお声もいただきました。また、お菓子は青木屋の水ようかんを用意しました。お茶席では茶会ならではの緊張感のある雰囲気を残しつつも、お茶とお菓子、部員とお客様との会話もあって和やかな雰囲気を楽しむことができました。

そして七夕茶会のもう一つの名物は夏の風物詩、

浴衣です。多くの部員たちが浴衣を着て、留学生の方たちにも浴衣体験をしていただきました。色とりどりの浴衣を着た人たちが日本の伝統文化に興じる様子は本当に華やかで、夏の風情を感じさせました。

七夕茶会後に留学生の皆さまに感想をいただいています。浴衣や茶道の体験にとっても喜んでくださり、お茶とお菓子も美味しかったとのお声をいただきました。良い思い出になったと言ってくださった方も多く、おもてなしする側としてこれほどの喜びはありません。これを機に留学生が日本の伝統文化に興味を持ち、茶道に興味を持ってくれたら幸いです。また、最後になりましたが今回の七夕茶会に際しまして色々ご協力くださった支援の会の皆さま、お暑い中、ご協力くださりありがとうございました。



(↑浴衣姿でいい笑顔。皆さんは、七夕でお願いした事、忘れていませんか?)

3-5 ふじのくに・留学生開国ツアー

開国・留学生ツアー

会員（長興寺住職）松下宗柏

「ふじのくに留学生ツアー」は3回目となった。今回は7月31日から8月2日の二泊三日、「開国・留学生ツアー」として実施、12名の留学生が参加した。初日、恒例となった、柿田川湧水公園、長興寺での坐禅と茶道の体験、夜は狩野川の花火を楽しんだ。

2日目は、海越しに富士山が眺望できる景勝の地

であり、日露修好のゆかりの地である戸田（へだ）を訪れた。高速船ホワイトマリンで30分の海路、富士山も姿を見せ、海風が心地よく一同ご機嫌だった。

戸田訪問は、昨年三月、ウクライナからの留学生ユリアさんの「ロシア人作家の歴史小説で、ディアナ号の遭難、日露協力による戸田号の建造を知った。ぜひ戸田に行きたい」という希望を端緒にしたもの。地元の商工会、観光ボランティア、天然塩つくりのNPOの皆さんが、温かく迎えてくれた。

留学生ツアーは「ふじのくに」の人々のホスピタリティーを育む機会にもなっている。今般、ツアーの受け皿として、地元協力者を得て「ふじのくに留学生支援の会」が発足した。三島市を拠点に起業した桐澤さん（スペイン語科卒）がメンバーに加わってくれたことを心強く思っている。

【MEMO】ふじのくに留学生支援の会とは・・・

これまで会報でもたびたび報告してきましたが、留学生のホームステイ、富士山見学など数多くの留学生受入の窓口になってくださっていた松下宗柏氏（東外大OB・沼津市長興寺住職）が会の代表となり、地元の多数の協力者の方々と共にこの会を新しく立ちあげました。今後も外語大の留学生のためにいろいろなイベントを計画してくださることと思います。

外語大留学生支援の会としては、参加留学生の募集から出発までお世話をし、後のことはふじのくに留学生支援の会におまかせすることになります。

同時に当会として、ささやかですが、一行事につき、5万円の補助金を支出することになっています。



(↑集合写真は笑って。)



(↑座禅は集中！！)

静岡県沼津市戸田(へだ)への旅

大学院修士課程1年
ドリナ (内モンゴル)

7月31日から8月2日までに私たち東京外国語大学の留学生14人は「ふじのくに開国・留学生ツアー」に参加し、静岡県沼津市戸田を訪問しました。本当に楽しい旅でした、いい勉強にもなりました。今回のツアーを支援してくれた松本さんをはじめ高木さん、石原さん及びホームステイ先の皆さん、戸田の皆さんに心から感謝しております。

31日は柿田川湧水公園を散策し、長興寺では抹茶と座禅を体験しました。長興寺の自然の景色も建築もきれいでした。特に、松下さんの座禅の解説は非常に印象強かったです。その時初めて「丹田」という言葉を聴き、人の力は丹田にあることを分かりました。ほかに「寿」「座」「息」「呼吸」「洗心」を勉強しました。人間は生きて行くためには、楽しいこともあれば、悲しいこともある。そういう時こそ「座禅」は必要だと思いました。だから、我々それぞれ違う国の人一緒に座禅することは非常に素晴らしいことだと言わざるを得ないです。

1日は船ホワイトマリン号で戸田に入りました。とにかく、戸田の皆さんは「暖かい」と感じました。まずは「松城邸」を訪問し、日本の建築の技術の頑丈さに驚きました。それに建築から日本人の心遣いを拝見できました。続いてディアナ号の艦長が寄宿した宝泉寺を散策し、そこで、ディアナ号の沈没した後戸田の船大工と住民が天城山の木材を利用して新しく洋式船を造り

あげました。プチャーチンは住民に感謝して、この船の名前を「へだ号」と名付けたことを知りました。造船郷土資料博物館も見学し、日本とロシアの歴史について勉強できました。その後はNPO 戸田塩の会の作業所を訪れ、戸田塩作りを体験しました。暑い日にも関わらず元気で塩作業に取り組んでいた婦人の方々の姿に感動しました。作業所で戸田塩の会の皆さんが北京オリンピックで歌った「富士山」という歌の中国語バージョンが流されていました。

戸田での一日はいろいろな体験ができて行って良かったと思いました。それに本当に小さい村ながら国際に繋がる歴史文化の村だと思いました。

2日は有名な修善寺を拝観し、温泉街を散策しました。そして温泉街の中心に位置する独鈷の湯で少年の父の十数年の病気が治り、その後温泉療法が広まったと伝えられています。

最後に今回の旅のメリットでもあるホームステイはすごくいい体験になりました。私がお世話になった可愛い、元気なお婆ちゃんのお宅は畑のある暖かい一階建てでした。お婆ちゃん自分で畑の仕事やりながら踊りも教えています。本当に充実した生活を過ごしています。お婆ちゃんは自分で作った野菜で美味しい料理一杯作ってくれました。それから私初めて浴衣の姿で温泉行きました。本当に楽しかったです、お婆ちゃんどうもありがとうございました。

今回の留学生ツアーに参加できてありがたいと思いました。日本のたくさんの歴史、文化に触れることができました。戸田はきれいな風景はもちろん国際に繋がるいい見学の場所だと思いました。皆さん是非一回行って見てください。

3-6 「子ども見学デー」(文部科学省主催)に 本学留学生が参加

文部科学省の依頼で、8月15日東京外国語大学の留学生課と留学生支援の会が協力して、8カ国の留学生9名が、「子ども見学デー」に参加しました。

子供見学デーは、子供が親の職場を見学すること等を通じて、親子のふれあいを深め、広く社会を知る機会とするために、文部科学省を中心に始まった取り組みで、今年は初めて、子供達が留学生と交流する

機会を持てるように企画されたそうです。

留学生は、モンゴルの馬頭琴、ベトナムのドラムの演奏や、印度舞踊やコロンビアのサルサなどを披露すると同時に、日本の剣玉や独楽回しなどをして子供達と楽しく交流しました。中でも好評だったのは、留学生が自国語の表記で子供の名前を書いてあげる「名前シート」でした。大勢の子供達が、自分の名前が9カ国語でかかれた名前シートをプレゼントされて、およろこびでした。

以下は参加留学生の感想です。

(幹事 梅田 記)



(↑子どもたちの真剣な取り組みに応える留学生。)

一日でも素晴らしい体験

大学院研究生

ファテメ・ガラファーニ (イラン)

8月18日(木)、8カ国からの留学生は9人文部科学省へ行った。ベトナム(1人)、ウズベキスタン(1人)、中国(1人)、インド(1人)、フィリピン(2人)、コロンビア(1人)、カナダ(1人)、そしてイランの私だった。前もって月曜日の15日に東京外国語大学に集まって、留学生課の梅田さんと谷川さんに18日に何をするか教えてもらった。とても暑い日だったし、午後1時半だった

ので、大変だったが、梅田さんが用意してくれたおかしとアイスを食べながら、説明を聞いた。

さて18日午前10:30からイベントが始まった。イベントは「子供見学デー」イベントという、小・中学生に対して母国の文化の紹介など交流を通じて異文化理解の機会を提供することであった。私たちが40分前に行き、民族衣装に着替えて、イベントが行われるところへ行った。子供が遊べるものはいろいろあったが、私たちは設置してくれていたブースのところに行き、掲示板に用意したポスターなどを張った。私はイランの見所、特産物など多くのポスターを持っていったので、何枚か張って、残りを手で見せることにした。

ベトナムのミンさんはドラム演奏、中国のチョコさんは馬頭琴演奏を行った。子供たちだけではなく、大人も楽しんでいるようだった。そしてインドのスプリアさんのインドダンスもとても面白かった。一番面白くて、人気があったのは世界のことばで名前を書くことだった。子供たちを呼んで、国当てクイズをし、顔や民族衣装、それからポスターなどでどこの人か推測してもらい、そして、梅田さんと谷川さんが用意してくださった2種類の紙のうち、好きなものを選んでもらい、子供たちの名前を日本語で書いてもらってから国の言葉で書いてあげた。

イランの言葉はペルシャ語で、文字はペルシャ語文字なので、日本語やローマ字とはまったく違う形で右から始まるのでとても喜んでもらったり、「カッコイイ」といわれたりしたが、文字はローマ字の国の場合もあったので「これ、僕も書ける」とかいう子供もいて、子供は素直で率直だなと思った。

「世界の言葉で名前を書こう」というゲームはとても人気があったので、最後は子供だけではなく、大人も名前を書いてもらいに来てくれた。名前を書いてから、持っていたポスターを見せて国のことを説明してとても楽しく過ごした。

私は文部科学省からいただく奨学金で日本に留学でき、生活し勉強しているので、いつもいろいろお世話になっているよう気がしているが、文部科学省はどこにあるか、職員は誰かまったく知らなかった。しかし、18日に文部科学省へ行き、職員に直接お会いでき、大臣官房など文部科学省のトップの人までお目にかかれてとても良かったと思う。そして子供が大好きな私

に子供たちと交流するのにとてもいい機会だった。

最後にみなさんと撮った写真を印刷してもらってプレゼントとしていただいて、いい思い出になったし、とても楽しかった。

ありがとうございました。

世界のことで広がる世界

博士前期課程 1年

チョコ (内モンゴル)

私の留学の目的は、日本で日本語を学習することです。私の通っていた中学校が日本の中学校と提携していたため、私は中学校の時から日本語を勉強し始めました。そして日本語、日本の文化にとっても興味を持つようになりました。その後、高校や大学であまり日本語を勉強する機会はありませんでしたが、ずっと独学で日本語を勉強していました。そしてやっと語学留学で日本に来られました。その後、東京外国語大学に入学し、日本語を本格的に勉強し始めました。日本で留学生として生活する中で、学校で習う勉強だけでなく、様々な形で勉強することができています。

今月18日(木曜日)、留学生課の依頼で、私は、カナダ、ウズベキスタン、コロンビア、イラン、タイ、ベトナム、インドの留学生達と一緒に、国民の福祉の水準が世界のトップの国、文化と国民の知性は伝説になっている日本国の文部科学省での、「子ども見学デー」に参加しました。

来場した子ども達の名前を、それぞれの留学生の国の言葉(文字)で名前シートに書いて、その場でプレゼントすると、様々な文字で書かれた自分の名前を見た子ども達は、たいへん驚いていました。そして、読み方や書き方を詳しく聞いてノートをしていた姿が印象に残りました。子どもなのに、言語学を楽しめるとは本当に凄いなと思いました。

日本の玩具、他国の玩具で楽しんでいる子ども達の姿を見て、私の心は満たされて幸せでした。そして子どもたちと一緒にいて、私も童心に戻ったような気がしました。

親子が一緒になってベトナムのドラム、モンゴルの馬頭琴の演奏、インド、コロンビアの民族ダンスまた、モンゴル、イラン、インド、タイ、ベトナム、など綺麗な

民族衣装、国や地域の文化を表す様々な写真展を見て楽しんでいました。

子ども達が私の馬頭琴演奏を聴いたり、真面目に座って馬頭琴を弾いてみたりしていた可愛らしく姿もいつまでも忘れられないです。

私にとって、今回の活動に参加して、色々な国の友達を作って、一緒に行動したのもとても楽しかったです。その中で自然に彼らの文化に接することも出来ました。そのおかげで、私の価値観と物事を見る視野がグローバル化されたと思っています。

とてもとても楽しい一日はあっという間に過ぎてしまいました。文部科学省の皆さんから親切にして頂き、私の馬頭琴の演奏を聴いてもらうことが出来て、とてもうれしかったです。本当に充実した1日間でした。

これからも、子どもたちへ自分の出身地である内モンゴルの文化を紹介し、市民センターでの中国文化の紹介などのような異文化交流、国際交流活動にも積極的に参加します。

そして、日本で長い間自分の目で見て学んで来た日本の発展した文化や人々の勤勉などを母国の人々に伝え、日本と中国、さらにモンゴルといったアジアの国々の友好な交流に貢献したいと思いがもっと強くなりました。

3-7 多磨駅前商店会祭り

日本の文化を理解する絶好のイベント！？

学部研究生

カテリネ・メネセス (コロンビア)

日本に勉強している留学生として、色々なことをしなければならない。専攻の聴講への出席や何冊もの本の読書など留学生らしくするものがある。しかし、大学生活は学習するだけではなく、楽しく過ごすことも大切でしょう。例えば10月10日(月)の多磨駅前商店会祭りという面白いイベントに中国人(3人)、台湾人(1人)、とコロンビア人の私が参加する機会があった。その時に日本の文化を理解する絶好なイベントだと思った。

10月10日午前10時からイベントが始まった。休日だったので、駅の前でたくさんの親子は色々な商品を

初めて参加した文化祭

—日本人の思いやりと友好あふれる人柄に 感激！！

特別聴講生
孟 盈（中国）

買って、文化のパフォーマンスを見て、楽しく過ごすことができて、とても幸せそうだった。私はそのイベントを成功させるため大事な役割があった。それはたくさんの飲み物の発売や豚汁を配ることだった。店の親切な店員を手伝うことは、私の気持ちをよくさせて、私の心は幸せに満たされた。また、たくさんの敬語の話し方を使って、丁寧に日本語を話すことができたので、いい練習だったと思う。

その他にも、ジャズの演奏や子守歌やすばらしい伝統的なパフォーマンスなどを見て楽しんだ。しかし、パフォーマンスの中で、一番好きなのは琉球諸島の踊りや東京外国語大学のチームが踊った人気のサンバだった。本当に興味深かった。

今回のイベントに参加して、日本人と日本の文化に接することができて、私にとって、とても楽しい経験だった。みなさんこのようなイベントでは日本語が上手になれるだけではなく、日本の文化のことがわかるようになるので、ぜひ参加してみてください。

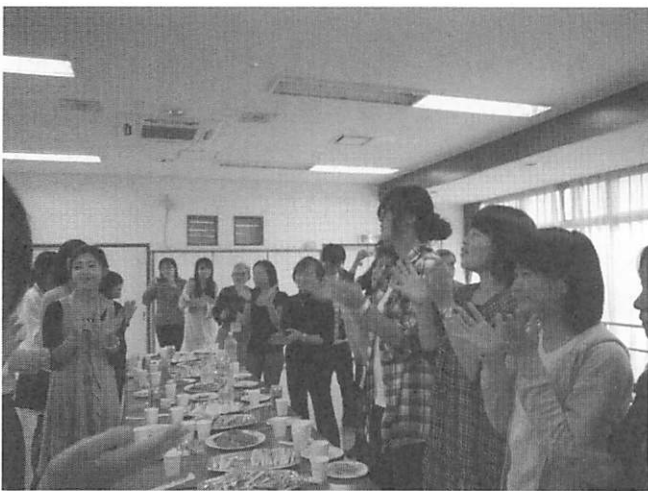
ありがとうございました。

3-8 府中市紅葉丘「地域文化祭」

紅葉丘文化センターの文化祭が10月23日(日)に行われました。

今年は10月入学の留学生18名に幹事3名が引率しました。

参加者は、みんな地域の大勢の人たちと交流し、出し物を楽しんだ一日でした。以下は参加留学生の感想文です。



(↑母国を説明するってとても大変。いい機会でした。)

10月23日に地域文化祭へ見学に行った。今度の文化祭は私が来日から参加する最初の文化祭であった。でも、私のような外国人にとってこれは普通の文化祭だけではなく、日本人の思いやりと友好が溢れている祭りでもあった。

今回のイベントは大体3つの部分に分けて進んだ。

まずはセンター内の見学。この部分では4人が1グループになり、さまざまな伝統作品の展示と実際の体験を通して、日本の伝統文化を身近に感じる事が出来た。係員の鎗田さんは優しく案内してくれて、陶芸・布絵・手編みなどについて詳しく説明して下さった。目の前に展示された生き生きとしていた布絵、手の込んだ焼き物と編み物を見て、作る人の心を込めて作る様子が頭の中に浮かんだ。こんなすばらしいものが作れる方はきっと心の清い人だろう。

今回のサプライズは、見学しながら面白いことをいっぱい体験できたことである。例えば、おばあさんとおじいさんたちの指導で風車と折り紙の柿を作った。作る間に、おばあさんとおじいさんとの交流で、日本のお年寄りの生き方、つまり、みなさんが若者に負けない充実した毎日を送っていることに感心した。もちろん、私にとって、一番嬉しいことは浴衣を着ることであった。人生の初体験として珍しく思ったけど、ボタンもファスナーもなしに、最後に体形を合わせてきれいに整ったのは本当に不思議である。多分これこそ和服の魅力だろう。つまり、体形を問わず誰でも着こなせること。

午後、小学生と中学生の楽器演奏会を聞いた。私は、はじめのトランペットバンドから最後の太鼓踊りまでずっと興奮して涙が出そうになった。演奏された曲はもちろん言うまでもなくすばらしかったが、私は全魂こめて演奏するかわいい子供のその姿に感動した。彼女たちがとても楽しそうに、真面目に演奏している姿がすばらしかった。多分彼女たちは自分がどんなすばらしいことをしているかわかっていないと思うが、でも私は彼女たちの演奏に救われ、こころが癒され、

また元気満々になっていった。

最後に、私たちは招待していただいて、おいしい料理を食べながら、気楽に話し合えて、とても楽しかった。

今、文化祭を振り返ると、文化はただの古いもの、伝統的なものだけではなく、今生きている人間の生活と生き方こそ、文化の一部として重要な役割を果たしていると思った。

以上のように文化祭でさまざまなものを実感して、日本への理解を深めて、私の心の中にいろいろな感動を与えられた。今回の文化祭は忘れられない貴重な思い出になった。

今日はいいお天気 ～留学生にとって有意義な活動～

特別聴講生
テイイ（内モンゴル）

今日はいい天気、日光が大地をあまねく照らしていました。今はちょうど紅葉が空から舞い落ちてくる季節です。先生と私たち留学生18人は紅葉丘文化センターを見学しました。有意義な一日を送って、本当に嬉しかった。

まず、午前には、優しいお婆さんの指導の下で、二つの風車を作った。自分の造った風車を持って、嬉しかった。それで、日本の和服を着て、友達と一緒に写真を撮った。和服を着るのは初めてで、良い気持ちでした。美味しい昼食を食べたあと、午後には、私たちは優秀な小学校の学生が生き生きしているイベントを見ました。小学生の吹奏楽団が、聞く人の興味をそそる音楽を演奏しました。深い印象を与えられたのはカリビアン海賊の奏鳴曲だった。私の心を奮い立たせるカリビアン海賊の奏鳴曲だった。その後、和太鼓楽団のみんなが日本の伝統の太鼓を打って、太鼓の拍子がリズムに合っていて、本当に素晴らしかった。みんなは優秀な学生で、私は心から承服しました。

次に、私たちは自己紹介をしました。ロシア、ベトナム、中国の三人が自国の歌を歌いました。歌はとても人を感動させました。

最後に、みんなでセンターのお婆さんが心を込めて作った美味しい物を食べながら、日本の紅葉文化

について交流して、私たちはいろいろな知識を得て、大変に勉強になりました。

今度の紅葉丘地域文化センター見学は非常に有意義でした。この活動によって、日本の現実の暮らしに深く入り込んで、いろいろな日本の文化の勉強になりました。こんな有意義な活動が多いほうがいいです。留学生の活動があったら、きっと参加したいです。日本の現実の暮らしに深く入り込みたいです。



(↑子どもたちの和太鼓が心に響きました！)

3-9 10月期バザー

2011年秋期バザーへのご協力

ありがとうございました

東京外国語大学留学生支援の会

去る10月19日(水)～20日(木)の2日間、秋期バザーを開催しました。東北の方々の状況を見るにつけ、今年は留学生への寄付は少なくとも仕方がないことだと思っておりましたが、例年通り沢山の品物が届き、会員の方々には心より感謝いたします。

初日に、200人以上の留学生が開始と同時にどっと入場し、まず欲しい必要な品物の置かれた場所へ急いで進み、その後、会場全体を見て回り、品定めをしたり、値引きを交渉したりと、バザーを楽しみながら品物を求めていました。今期もやはり、一番人気は電気釜やトースター、電気毛布、電子辞書等の電化製品、寝具の売り場に多くの学生が集まりますが、需要が供給より多く、いずれもすぐになくなりました。ところで、食器、台所用品、バスタオル等と着物が今期は多く集

まりました。留学生は一つ一つ好きなものを選んで求めていました。

今季もまた、皆様から送っていただいた品物が多く、残った衣類や食器がありました。期間中に来られなかった留学生たちに、欲しいものは無料で提供したり、東北の方々に役にたちそうなものは、お送りすることにいたしました。

今回も原則として、電気製品 500 円～1,000 円、他はすべて 100 円(小さな物はまとめて)、書籍はただとしました。書籍の中では、いつも辞書、子供用の歴史小説や児童文学書、教科書などは、すぐになくなりました。また、着物、ゆかたも大人気でした。

いつものように、留学生たちは、いい品物を安価で得られて大喜びでした。

バザーの収益金は、73,000 円でした。

いつもながら毎回、送料もいとわず様々な品物を提供して下さった会員の皆様には、留学生ともども心から感謝申し上げます。(梅田 記)

TAHANK YOU FOR EVERYTHING!

心待ちにしていたバザー

I S E P

アフマトヴァ・アジマ (ウズベキスタン)

私はウズベキスタンから来た留学生だ。2011年10月に東京外国語大学に ISEP 学生として勉強し始めた。

日本へ来る前に先輩にいろいろな話や相談などを聞かせてもらった。そのとき先輩にバザーについて初めて教えられた。外国語大学の寮に入ったとき困ったことがあって、足りなかったものが一杯だった。そして、先輩と連絡した後で足りなかったものをバザーでほしい無料に近い値段で買うことができるといわれた。そのときから、私はバザーを待っていた。

バザーは外国語大学で恒例の行事になっていました。今年のバザーは10月19日に行われた。友達と目的地的に来ると私はすごくびっくりした。日本でのバザーは中央アジアのバザーみたいに人々が多かった。そこには小さな店のように店員さんがいろいろな面白い物を売っていた。でも、面白いだけではなく、寮

の生活を便利するために有用な商品がたくさんあった。私は自分のために全ての必要なものを見つけられた。

それで、値段は非常に安かった。例えば、布団を500円だけ払ってもらった。普通の店と比べてこれは10倍安い。それから、鍋や、パンなどを100円で買った。さらに、箸とか、皿とか、ボウルを留学生たちは10円で買えた。本や小さなものをただでもらうことができた。私が驚いたのはバザーで新しい商品がものすごくあったことだった。例えば、新しい皿のセットを100円しか払わないで買った。でも、それどころか、新しい電気製品も販売していた。私のスロベニアから来た友達は電気ティポットを500円で買った。それはすごく良かった。それから、ロシアからの友人がセーターを見つけた。しかし、一番驚いたものは1000円のマイクロウェーブだった。それは本当に偉大な価格だと思う。

バザーではこのようなものだけでなく、服もたくさんあった。コートや、ジーンズや、カバンなどが売られた。エジプトからの友人は300円で浴衣を買った。私は新しい鞆を100円しか払わないで買った。毎年東京外国語大学で留学生の生活を援助するためにバザーが行われている。そこでは学生たちは自分のために必要な商品を見つけられる。値段は商品によって違う。電気商品は500～1000円、服は100～300円、食器は10～100円までだった。このような値段は誰でもびっくりすると思う。ところで、19日に間に合わなかった留学生は次の日残ったものを買えた。

今、私は来年の春に行われるバザーを楽しみにしている。

[MEMO] 留学生、ことに来日間もない留学生のかなりが、大学の留学生課と当留学生支援の会との区別がついていない様子がみえます。会員の貴重な会費を財源として、会員の努力によってすべての活動が成り立っていることを、今後正しく伝えていくことが必要であると認識しています。

うれしかったバザー

I S E P

謝淑婷 (台湾)

日本に到着した 10 月の末、台湾はまだ夏のようで

EXPERIENCE

4. ホームビジット&ホームステイ

An incredible Buddhist temple, SHIZUOKA HOMESTAY PROGRAM

July 31st, 1 and 2 of August 2011/10/26

Research Student

Carlos Mendez Ibanez (Chile)

During the summer of this year (2011), I had the pleasure to participate in a Home-stay program for international students of Tokyo University of Foreign Studies that gave me the opportunity to visit for the very first time the beautiful prefecture of Shizuoka and all the charming places, people and culture of an area relatively close to Tokyo (the south) and experience the life in a Buddhist temple.

We took the bus early in the morning, leaving a noisy Shinjuku station area behind. The bus was, as a typical bus in Japan, quiet but full. After a couple of hours we arrive to a nice park in Shizuoka (whose name I cannot remember) at the entrance of the prefecture. It was nice but hot, but we had the chance to be oriented and introduced to the place by a sort of rural tourist guide.

After a while, we were driven to the place that will host us for a night: an incredible Buddhist temple. We were received by a short, talkative and energetic monk who gave us a warm welcome and let us walk around and inspect every single corner of the temple that all of us, full of curiosity, did overwhelmed by the beauty of the place.

While we were introduced to our host families, we enjoyed a sweet piece of watermelon and Japanese tea that helped us tolerate the heat of that day.

したが、日本の成田空港を出ると、温帯国の天候だとすぐ気付きました。チューターと一緒に大きな荷物を運んで、東京外国語大学の留学生課から国際交流会館まで歩いている時、冷たいそよ風が顔に吹いてきて、秋の寒さを感じました。その後、寮に引っ越し、先輩から色々な物を貰ったのですが、まだ自分を買わないといけない物はたくさんありました。しかし、日本の物価は台湾の3倍くらいなので、お金がいっぱいかかるかもしれないと思い、心配していました。なので、留学生の説明会に出た時、10月19日と20日に留学生支援の会がバザーを開催すると聞き、よかった、とほっとしてため息をつきました。

バザーに行く結構多くの物がありました。お皿や服や靴などから、電化製品や布団まで、大体の生活用品が揃っていました。友達が商品を楽しく、しかし真面目に選んでいる顔を見ると私も早速、山のような宝物を探し始めました。私はベッドのカバーを買いました。先輩からもらった布団に使おうと思っていました。そして、学生たちと一緒にハンガーに掛かっている服を見ていると、私は新品の柔らかいパジャマを見つけました。日本の冬は台湾の冬より何倍も寒いので、初めて日本の冬を体験するのは、少し不安です。台湾で「冬に生まれた赤ん坊は寒さを怖がらない」ということわざがあります。しかし、私は1月に生まれたにもかかわらず、普通の人より寒さに弱いです。それゆえに、バザーで安くて保温性のあるパジャマを見つけて本当に救われました。そして、私は新品の大きなタオルと古着を買いました。それ以外に、一着の着物を見つけました。着物一式を揃えるのは大変なので、2日目に着物に詳しい留学生支援の会のスタッフがライニングや帯などを用意してくれて、本当に助かりました。その着物を正月に着て、日本式の新年を体験できるので、嬉しいです。

商品が豊富なバザーで、友達も安い値段で布団や電化製品や服などを買っていました。みんなたくさん買い物をして嬉しそうでした。バザーがあったことは、留学生にとって大きな助けになりました。とても感動しました。留学生支援の会の皆さんも熱心に対応してくださいました。多くの商品を提供してくださり、本当にありがとうございました。

After a nice tabehoudai dinner, I and other 2 friends had the possibility to attend the hanabi taikai with preference seats and privileged view, right next to the river. That day we spent the night with our host family that unfortunately was the only one we could share together.

The next day we were taken to Heda in the Izu Peninsula, a really nice small village, where we walked around while all the people there seemed to know that a group of foreigners the village and in every place we were treated very kindly and friendly.

An exhausting day but very rewarding because we had the possibility to visit a samurai house, museums, and visit a place where old women work refining and producing salt; day that ended up with a group interview for the local media.

When we came back to Shizuoka, we went for dinner with our host father and then, we were taken to the temple to spend the night there.

A really nice place, magic and different, that prepared us a surprise... a strong tremor!! But we were protected by the aura of the place.

The third and last day, we went to a big and beautiful temple, surrounded by some nature where the atmosphere was relaxing, even more than in other places, maybe because of the wheatear, maybe our mood after a short but intense experience in a temple with good energy and nice people.

It was a really nice experience, quiet but at the same time exciting, different but in a good way. Definitely a good memory for the future.

VOICE

5. 留学生の声

5-1 Volunteering in Ofunato

Master Peace and Conflict Studies

※Peace and Conflict Studies;和構築研究

Nicolas Ballesteros (Spain)

In August 2011, for two weeks I had the opportunity to join to the international NGO (Non-Governmental Organization) "All Hands" for volunteering in Ofunato, Iwate in a relief project.

"All Hands" is being working in Ofunato since March 2011, the main target to the NGO is to help in the reconstruction of Ofunato, not only in the first assistance after the earthquake, but also in the long term social and community support. In these 6 months, "All hands" is working with more than 700 volunteers, mostly international but also Japanese people have been working there.

"All Hands" volunteer approach is very simple. After a first stage of assessment and evaluation of the situation in Ofunato and surrounding, they contact with the local people looking for projects that volunteers can do, after that, they organize teams of volunteers for realizing it. There are many different kind of project that had been made by volunteers. From cleaning the mud in the street, roads or houses, to the recovery of photos founded after the tsunami, but also house reconstruction or food assistance to the new users of the temporary houses.

However, the most interesting about "All Hands" is the simplicity for joining them, after applying by the internet web site and contact them, the volunteer only have to arrive to the Ofunato "All Hands" base and from that



moment "All Hands" is providing tools, local transport, meals and accommodation. Volunteers don't have to be worry about anything, just be ready for working hard! Make really easy to be volunteer. (All Hands website: <http://hands.org/>)

During the two weeks that I spent in Ofunato, I had the opportunity to work in different projects in different parts of Ofunato. Almost 6 months after the tsunami, there are many jobs for being done, some of them are really simple but Ofunato need people to help them, and the volunteers -international or Japanese- are always welcome.

However, there are many ways of being volunteer and help to Tohoku people. There are some NGOs and NPOs in Tokyo that are working for helping to Tohoku. The NPO Second Harvest Japan is working supporting Tohoku with food supply (Second Harvest Japan website: <http://www.2hj.org/>) but it's just an example! There are many ways to help! For me, the most important idea is that "small contributions make BIG changes". If we work together, we can make real change in the life of people that need it. Just think about it!

5-2 シンポジウムに参加しました！

テーマは、自然会話における「なんか」の機能

大学院総合国際学研究
博士後期課程言語文化専攻
黄美花（中国）

留学生支援の会のあたたかいご支援のもと、下記のシンポジウムで無事発表を終えることができました。シンポジウムには日本、韓国、中国の約240名の学者、院生たちが参加して議論を広げました。そのうち大学院生の発表は35件でした。シンポジウムのテーマは、「東アジア文化相互交流の中の日本」であり、言語だけではなく、文化、経済、外交など多岐にわたって貴重な講演、発表を聴講することができ、大変勉強にな

りました。また、本人の発表では、多分野の先生方から貴重なコメントをいただき、これからの研究に活かしていきます。ご支援、どうもありがとうございました。

会議：第二回中日韓朝言語文化比較研究国際

シンポジウム @中国・延辺大学

期間：2011年8月22日～8月24日

発表：2011年8月23日 言語第4会場

テーマ：「母語場面と接触場面の自然会話における『なんか』の機能に関する研究 一日・中・韓母語話者の初対面会話に着目して」



（↑発表は緊張しましたが、とてもいい経験となりました。）

【MEMO】当会は、大学院生への学会参加補助をしております。今後とも、会員の皆様の支援のもと、学生の高い志に応えていければと思っております。

5-3 この4月に日本に来て学んだこと お月見、お花見・・・「～見」という文化

学部研究生

バドデルケル（モンゴル）

私は今年の4月に日本に来ました。日本に留学するのが夢でしたのですごく楽しみにしていました。しかし日本に着いてしばらく寂しくて毎日国へ電話していました。そんな私に対して大学の先生方と留学生課のみなさま、特に大学から紹介してくれた当大学の院生でいる大西秀幸さんがチューターとして色々お世話してくれました。例えば、宿題と発表の手伝い、それから日本文化と日本料理も紹介してくれました。

それで、友達もたくさんできてだんだん慣れてきま

した。さらに、大学の皆さんにかぎらず、日本人がみんな本当にやさしくしてくれたあかげで寂しさがなくなっていきました。

6月からはバイトも始めて、日本人と日本語を使って働くことになったのは自分の日本語の会話能力を高めるだけでなく、日本の生活を体験できるいいチャンスでした。バイトのみんなもとても優しくいつもお世話になっています。

夏休みに留学生課の梅田さんの紹介で多摩地域にある大学の先生方と留学生が参加したお月見会に行きました。お月見会は日本人の家で行われ、食べ物は全部その家族の方が用意していました。お月見は、日本の伝統的な行事の一つで日本人達が秋のきれいな満月の下で飲んだり、食べたり、踊ったりする行事ということが分かりました。そして日本人は自然の美しさを感じながら楽しむのが好きなのだと感じました。

私はモンゴルの大学で日本語を勉強していたとき日本文化を教わりました。その授業で日本のお祭りと行事について学んだのですが日本には「～見」という行事があるということを知りました。例えばお月見、お花見などです。そして初めてその「～見」という行事に参加し、体験することができました。私はまだお花見に参加したことがないのですがきれいな花を見ながら楽しむ行事だろうと想像しています。だから来年の春を楽しみにしています。

その後、留学生課の紹介で、9月にオリンピックセンターで行われた「グローバルネクストリーダーユニフォーム 2011」に参加しました。そこに集まったのは英語ができる人ばかりで、みんな英語がペラペラで、うらやましかったです。3日間、主に英語を使って過ごすことで英語を勉強するためのやる気おきました。とてもいい体験になりました。

もう秋学期も始まっていますが、これから日本語の勉強も英語の勉強も頑張りたいと思います。また、バイトも頑張って日本のことを詳しく知ろうという前向きな気持ちを持っています。



ご入会、ご寄付 ご協力いただき、ありがとうございます

お詫び申しあげます

既にお送りしました会報37号の内容について大きな手落ちがありましたことをお伝えしなければなりません。

この4月、入学式前後に新規に当会へご入会いただいた皆様のご氏名を、前号の会報14ページに一覧掲載する予定でいましたところ、一部の方がたのお名前が洩れてしまいました。前号発送数日後に一会員の方からご指摘を受け、直ちに該当者の方がた全員に、お詫びの葉書をお送りしました。

新規にご加入いただいた皆様は、私どもにとりましては、まさに“会の宝”でありまして、皆様のご支援あってこそ、会の活動が継続できますのに本当に申し訳ないことをしてしまいました。

心より深くお詫び申しあげます。

次ページに該当する皆様がたのお名前を掲載いたします。
(中嶋洋子記)

平成23年度 会費納入のお願い 随時受付

10月31日現在

会員数：1,566名

納入率：40.4%

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込くださいます様、お願い申し上げます。

※ ひとりでも多くの方々の早期納入のご協力をお願い致します。

※ 振込用紙にメールアドレスをお書き添えいただければ、今後、当会の各種イベントなどの情報をお届けしていきます。

一般会員：年会費 3,000円

協賛会員：年会費 20,000円

■一般会員

(平成23年2月5日～23年5月31日)(敬称略)

青木幹太郎	今井義久	小美濃友晴	工藤いく子
青山千夏	今川雄介	小山勉	國吉正秋
青山三紗	今村友洋	柿山優美	久保昭仁
赤崎浩一郎	岩井琴	笠嶋千秋	窪田朝美
浅野修	岩井谷美由紀	笠原成美	久保隆
足利貴志	岩崎佳奈子	笠間大樹	倉畑雄太
安達貞二	岩田和馬	梶山紀子	倉持健二
阿野万里子	岩田ももこ	桂栄一郎	黒坂和彦
阿部育夫	岩田友里奈	加藤藍	黒澤優子
阿部はるみ	岩田理穂	加藤あい	桑迫好和
荒井信昭	上田亜也佳	加藤景大	小池優佳
新井悠美	植村淳子	加藤悠	古石敏昭
荒井里沙	宇梶淳平	加藤美佐子	小岩則子
荒川絵美	鶴澤ひかる	加藤萌絵	香西花菜
飯島一行	臼田正史	金井亜津子	合田恵美
飯谷一則	梅田恒樹	金子瑞葉	高実那美
飯浜早紀	江部早子	川合真由美	小坂暢裕
五十嵐久人	遠藤隆俊	川上忠宏	越尾淳一郎
池添真紀	大熊春夫	川島美樹	越田真奈美
石川充洋	大嶋友也	川住みあき	腰原葵
石川大貴	大下肇	川野辺かおる	小島一浩
石田靖彦	太田紫緒里	河又香留奈	小瀬戸昌博
石橋佑悟	太田千暁	川村麗美	小滝啓輔
石原拓海	大塚正夫	川本詠梨	後藤佳奈
石丸朗	大橋力	神原大造	小沼悠太
石山真澄	大平健太	木尾光一	小林紗季
板場啓介	尾方大樹	木崎安紀子	小林太郎
市川達夫	岡田麻希	岸部知修	小林希
井手生朗	岡本均	北出泉	小林風花
井出遥	小川藍	北野教夫	小林万紙
伊藤恵利子	小川和之	北野まり子	小林由佳
伊藤直史	小川まどか	北村俊平	小林理穂
伊藤徹也	荻原丈夫	木下佳奈	小林瑠音
伊藤水音	小倉淳寛	木下京子	小松歩美
稲垣一之	小黒晴二	磯間ひな子	小松善仁
稲田貴季	刑部昂	木村寿行	小見山郁子
稲村玲子	小佐野有紀	木山翔太	菰田有花
井上藍花	小澤明	清瀬享子	小山史久
井上明美	押尾有理香	日下慧人	小山史子
膽畑公貴	小野徹	日下部透	小山森生

新規加入者

■一般会員

(平成23年6月1日～23年10月31日)(敬称略)

池田桃香

会員寄付者

(平成23年6月1日～23年10月31日)(敬称略)

■一般会計への寄付

池谷満	鈴木文子
池田修悟	鈴木正道
池谷貞悟	田口勝美
板久恭子	頼母木久代
市川友子	田原明
井上東一・久美子	都築秀之
猪鼻光子	寺田朗子
上野幸江	長島寿勝
江川友理子	中村英深
大塚定	長谷川孝
小野沢格子	長谷川雄一
片岡護	早川裕
鐘ヶ江信光	疋田妙子
北村みどり	藤井隆雄
拳市玲子	星達雄
合志正三	本望春夫
小島照恵	松井清治
五島大介	松尾毅
五味和行	松下宗柏
笹岡太一	三浦ときえ
佐々木美喜子	山岸隆夫
新堂睦子	横石邦彦
菅野研作	横田淳子

安藤浩行(非会員)

■緊急貸付金への寄付

浅野尚文

万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、当会までお知らせ下されれば幸いです。

留学生支援

会員の皆様ひとりひとりのご協力が

留学生の笑顔をつくっています！

継続的なご支援を

お願い申し上げます。

ACTIVITIES

6. これからの活動

※これからの活動について、会報がお手元に届く日付によっては、既に終了してしまった企画がある場合がございます。ご了承いただきたくお願い申し上げます。

1

各国文化紹介—お茶とお菓子を通して
(留学生と日本人学生との交流会)

11月16日(水)

日時: 11月16日(水)11時50分～

場所: アゴラ グローバルのカフェ

留学生発表参加国:キルギス、モンゴル、イタリア

費用:無料

※簡単なランチの用意あり

2

東京下町文化体験ツアー

11月26日(土)

(2ページ参照)

日時:11月26日(土)

集合場所、時間:日の出棧橋 12時半

解散時間:20時予定(両国)

費用:おおよそ4,000円

3

今年も!「国際交流の夕べ」

12月16日(金)

今年も!

恒例の留学生との交流を是非お楽しみください。

会員の皆様のご参加をお待ちしています。

日時:12月16日(金)18時～20時

会場:大学会館学生食堂

費用:無料

当日のお手伝い・参加可能な方は、当会または
下記までご連絡下さい。

042-330-5183(火、水、金のみ、梅田まで)

幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成23年7月10日(日)

平成23年10月15日(土)

平成23年11月6日(日)

平成23年12月3日(土)(予定)

HOME VISIT & STAY

♪ ホームビジット、ホームステイ受け入れに関心のある方は是非、当会にお問い合わせ下さい。

首都圏などでのホームステイ受け入れに加えて、地方の方々のお申し出もお待ちしています。といたしますのは、留学生たちは、日本の地方の文化に触れ、生活してみたいという希望もまた多いからです。

ご意見、感想など、会報への
投稿募集 どしどし
お寄せ下さい

当会へのご意見、ホームビジットやイベントに関する感想文など、会報への投稿をお待ちしております。
お気軽にお問い合わせ下さい。



MERRY CHRISTMAS!

<お問い合わせ先>

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学 留学生課気付 (梅田、谷川)

TEL: 042-330-5183、5759

FAX: 042-330-5189、5762

E-mail: tufs-issa@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

©Copyright 2011, TUFUS International Student Support Association

東京外国語大学 留学生支援の会

No.39
年3回発行

Since 1999

会報

「留学生の声」～留学生の目には日本がどのようにうつっている
のでしょうか？ ぜひお読みください！（特集は9ページより）

Pick Up
Event 2012

春のバザー開催！4月17日(火)～23日(月) バザー用品受付
ボランティア募集！ バザーの人手が足りません。（詳細13ページ）

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5759 FAX 042-330-5762

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

INSIDE

Page 1.	1. 巻頭言
Page 2.	2. ご挨拶
Page 3.	3. 活動報告
	3-1 お茶とお菓子を通して
	3-2 国際理解教育への協力
	3-3 東京下町文化体験ツアー
	3-4 「国際交流のタベ」
	3-5 日本語指導教室
Page 9.	4. ホームビジット&ホームステイ
	4-1 新潟の西原さんと初めての雪
Page 10.	5. 留学生の声
	5-1 日本はやっぱりこれだ！ 外大は大好きだ！！
	5-2 夢のような外大に留学する ことになって、4ヶ月！
	5-3 学生の日本での生活 ～留学生の生活には悩みが ないわけではない～
	5-4 宮城県石巻市へのボランティア の旅
Page 12.	6. 会員の声
Page 13.	7. これからの活動

FOCUS

1. 巻頭言

退職を前に感謝を込めて

教育・入試改革等担当副学長
富盛 伸夫

東京外国語大学留学生支援の会の皆様には、日頃より留学生の方々をはじめ、会の活動を通じて日本人学生諸君に対しても多大なご支援をいただいておりますこと、感謝申し上げます。

はや一年が経ちましたが、昨年3月の東日本大地震とそれに続く災害については、全くの予想外の深刻な出来事でした。大学も緊急の危機管理体制に入り最善をつくすよう努力を続けてきましたが、留学生支援の会におかれましても、大変なことの連続であったと思います。まず、何よりも、留学生の皆さんの安否を気遣い、母国のご両親や親族、友人、先生方の心配への対応、帰国すべきかどうかの相談と助言、経済的な条件の悪化への支援・サポートなどなど、皆様方にはご苦勞の絶えなかったことでしょう。改めて、ここに深く御礼申し上げます。お陰様で、本学の留学生

さんは次第に精神的にも安定してきて、いまはほとんど平常時と同じく勉学に向かえるようになっているようです。

大学が府中市に移転してきてから、もうすぐ12年になろうとしています。当時の中嶋嶺雄学長の細部に至るまで細やかな配慮の行き届いたプランニングで校舎や図書館、国際交流会館など、素晴らしいキャンパスへと、その後も順調に充実してきました。多摩の緑に溶け込んだ美しい学びの空間に毎年春が訪れ、卒業生・修了生を送り出し、また新入生を受け入れてきました。府中市や近隣の市町村、とくに朝日町の街の皆様にも大理解と力をいただいているのも、ありがたいことだと思っています。

さて、私事ですが、この3月には長年教員として勤務した本学を退職することになりました。長い間ありがとうございました。先日の最終講義の前には、自分の学んだ学生時代の恩師の先生がたのことや、5年間過ごしたスイス・ジュネーブ、パリなどの留学時代を思い返しました。奨学金を給付してくれたり旅行に連れていってくれたりした大学や先生がたとの関係も重要でしたが、それよりも将来のあやふやな青年期の私を支えてくれたのは、周囲の方々との毎日のお付き合いでした。その中には、いわば町内の人々や時にお世話になったお医者さんなども、今でもお付き合いがあり、御恩は忘れたことはありません。自分が、スイスやヨーロッパのことで研究をしたり教育に携わることができているのも、そのような貴重な体験が原動力になっているのだと思います。

これからは私も教育と大学運営の第一線から離れますが、留学生の支援を通して国際交流への重要な役割を果たして下さっている皆様方の後ろから、すこしばかりのお手伝いのできれば、と思っています。どうか、よろしく願いいたします。



2. ご挨拶

初めて見た日本という国

会長 中嶋 洋子

新しい年を迎え、会員の皆様、いかがおすごしでしょうか？

日本にとって、去年は辛く悲しい年でしたが、そしてその解決もままならない現在、私自身がやれること、やるべきことは何かを模索しながら日々を生き続けたいと思っています。

話は変わりますが、皆様には是非、お知らせしたいこと、それはある会員の方から多額なご寄付をいただいたことについてです。その方は昭和17年に外語大の中国語科をご卒業なさったとのこと、振込み用紙には、「学業生活困難な留学生のために」としたためられていました。

さっそくまずはお電話でひと言お礼を申しあげましたが(もちろん後日丁寧なお礼状をお送りしましたが)、その時の様子から、90歳を超えた方が、わざわざ郵便局まで足を運んで当会のために振り込んでくださったように思います。大変心を打たれたことでした。有効に使わせていただきます。

さて、前号会報(38号)のこの欄で、「東京下町文化体験ツアー」という新しい企画についてお伝えしましたが、その具体的な事業報告は、5～7ページをご覧ください。

当日は、日の出棧橋から船に乗り浅草へ、浅草寺に参詣し、日本の伝統的な品々が溢れる小さな商店の並ぶご存じの仲見世通りを散策し、続いて川べりを歩いて両国へ、江戸東京博物館を見学、その後、一同お腹をすかせてちゃんこ鍋に舌鼓を打ったのでした。

その時の懇親会で、感想を語り合ったのですが、ある留学生の発言を是非お伝えしたいと思います。

「今日1日の経験によって、自分にとっては初めて日本の現実をみた、日本人の生活を見た気がする」、といった要旨でした。

彼にとって、この1日の経験が、日本という国、日本の

文化を垣間(かいま)見る機会になったのでしょうか。

自分のマンションと学校の間を行き来するだけの生活からでは見えなかった世界を、彼は発見したのではないのでしょうか。

こうした観点の大切さを感じた彼は、今後は日本で留学生生活をより一層豊かなものにする努力を続けることでしょう。

これこそ、当会が目指す各種の企画の成果の1つであろうと思います。

最後に、前号の会報で皆様にお尋ねした会報誌上の留学生の日本語の表現についてですが、幹事会、ならびに幹事協力者の間では、留學生がこれまで一生懸命勉強して習得した日本語を、たとえ多少の違和感はあろうとも、なるべく活かす方向で処理しているのではないかとのご意見が多くあったことをお伝えしておきます。

REPORT

3. 活動報告

3-1 各国文化紹介—お茶とお菓子を通して

日時:11月16日(水) 11時50分～

会場:アゴラ・グローバル カフェ

所感:イタリア、キルギス、モンゴルのそれぞれの留學生たちが5分という限られた時間の中、出身国の紹介を工夫を凝らし熱心にやってくれました。パソコンのパワーポイントを使っただけの発表は、準備も良く効果的でした。

今回は、民族衣装の留學生の参加の他、キルギス大使館の依頼を受けた留學生の伝統楽器“コムズ”の演奏も加わり、華やかさも増し、大いに盛り上がりました。

会場のアゴラ・グローバルのカフェは、6月に続き2度目なので、それぞれの国の担当幹事もテキパキと準備を手伝うことができ、スムーズにブースごとのお茶やお菓子の紹介ができたと思います。

今回も亀山学長が参加して下さり、ご挨拶の他、留學生とも気さくに談笑され、大人気でした。

初めての試みとして、facebook や twitter で呼びかけを行ったことも、参加者の増加に貢献したのではないかと思います。

(幹事 伊藤 記)

本当にできるのかな～

モンゴルのお茶とお菓子の紹介

研究生

ボヤンジャルガル (モンゴル)

とりあえず、モンゴルのお茶とお菓子を通じてモンゴル国、モンゴルの文化や習慣を紹介するチャンスを与えてくれたことに大変感謝を申し上げます。

モンゴルのお茶やお菓子の紹介会に発表するために、モンゴル人なのに気づけなかったことや知らないことが山ほど多く出てきて、自分でも驚いて、一方で自分のことを恥ずかしく思った時もありました。

先生方々と各国の学生たち、その上に、こんな私のことを期待してくれた留學生支援会の皆さんの前に発表するということを配慮し、自分のことを恥ずかしく思いながら、色々勉強しました。5分以内にどうやって分りやすく、知識になる発表するかということは予想していたより簡単ではありませんでした。私にとってはこのお茶やお菓子を通じて各国文化の紹介会は非常に勉強になりました。私自身は日本留学ははじめてで、来たばかりで、皆の前に自分の国について紹介するとは思っていませんでした。「本当にできるのかな～」と自分に聞いたこともありました。

しかし、留學生支援の会の皆さんのおかげで、期待していた通りには出来なかったと思いますが、少しでも紹介することができたのではないかと思います。国のお菓子やお茶を出すことになって、大体のものをモンゴルから送ってもらい、あげパンみたいなお菓子やガンビルというお菓子を自分で久しぶりに作ったことも思い出深いものとなりました。(でも、美味しくできなかったのもので、本番に出すものを知り合いのモンゴル人を頼んで美味しく作ってもらいました。)

最後に、このお菓子やお茶の紹介会が非常に勉強になり、日本での思い出に残るものの一つとなったと嬉しく思います。どうもありがとうございました。

今まで皆さんに色々お世話になってきました。これ

からもよろしくお願いします。



(↑パワーポイントでの説明に耳を傾ける学生たち。知らない世界がいっぱい。好奇心をくすぐります！)



(↑当日は亀山学長も駆けつけ、留学生たちと交流。)



(↑キルギスの伝統楽器“コムズ”の演奏に感動！)
コムズ:キルギス名産のリンゴ、梨、杏の木材で作られた日本の琵琶・三味線に似た三弦楽器。音色は時に哀愁を帯び、時に騎馬民族の跳ねるようなリズム感がある。)



3-2 国際理解教育への協力

「馬頭琴の曲は、まるで草原を走っている馬みたいーい！」これは、府中市立住吉小学校の3年生のクラスで、モンゴルの留学生が馬頭琴の曲を弾いて聞かせたときの生徒の驚きの言葉です。

支援の会では、4,5年前から近隣の小中学校の国際理解支援ということで、各国の留学生に、自国の文化を紹介して欲しいとの講師を依頼されることが多くなりました。

今年度も7つの学校で50人近くの留学生が講師を務め、子供達と交流しました。

それぞれの学校では、講師になる留学生の国について事前に調べたり、歓迎の準備をして待っていてくれました。毎年留学生が講師を依頼されるはるひ野中学校の生徒達は、今年は外語祭にも参加し、世界の料理を味わって、それぞれ自分の好きな料理についてクラスで発表もしていました。

今回は、そのはるひ野中学校の千葉先生にも、これまでの交流について寄稿していただきました。

(幹事 梅田 記)

—中学校の立場から—

川崎市立はるひ野中学校教諭
千葉 葉子

平成22年度・23年度の2年間、東京外国語大学と連携し、多言語・多文化理解を目的とした国際交流・国際理解の学習をさせていただきました。

川崎市立はるひ野中学校の1年生は「総合的な学習の時間」において、「国際交流」をテーマに学習しています。主な活動内容は、留学生交流、外語祭訪問、外語大生による多言語・多文化理解のワークショップ参加の3つです。今年度は4回の留学生交流授業を実施しました。各回2人から3人の留学生に、各国の政治や歴史、衣食住についての授業をしていただきます。外国の方の話を聞く機会の少ない生徒にとって、大変貴重な経験であり、外国に対して興味・関心を高めることのできる時間となりました。また、生徒は、事前に各国についての調べ学習を行った上で授業に参加するため、疑問に思ったことや興味をもった

ことについては、その場で質問することができ、机上の学習では得ることのできない国際交流ができました。生徒はこの学習を通して、世界へ視野を広げるだけでなく、各国との文化や習慣、考え方の違いを互いに認め合うことの大切さを学んだように思います。先日行ったスペインと台湾の留学生交流授業を終えた生徒の感想を紹介します。

「僕は2人の留学生の話聞いて、行ったことのない国だけど親近感を感じる所が数多くありました。台湾で日本のアニメが流行だと聞いて、外国にも日本の文化が入っている所に親近感がわきました。また、台湾の方は日本のアニメを見て日本語を勉強したと言っていたので、僕も英語のテレビを見たら英語が上手になるのかなと思いながら話を聞いていました。僕もお二人のように、将来自分の国の事を外国の人々に伝えていきたいです。そのためにはまず、自分自身が自国の文化に触れ、興味・理解を深めていくことが大切であり、これからの課題だと思いました。」

外語祭も大変楽しませていただきました。生徒は、1500円のお小遣で、他国の食文化に触れることができたことが何よりも楽しかったようです。もちろん食することだけでなく、外大の生徒さんが企画して下さったミッションにも興味をもって取り組んでいました。事後学習として、興味のある国をひとつ選択し、その国について調べ学習を行い、さらに理解を深めることができました。

東京外国語大学との交流を通し、国際的なものの見方や考え方を身につけることの大切さを改めて知りました。生徒だけでなく、教員もが楽しみながら学ぶことができたように思います。今後ともよろしく願いいたします。



(↑留学生との交流を通じ、学んだこと、伝えたいことをまとめた中学生たちのボード。)

3-3 東京下町文化体験ツアー ～隅田川クルーズ、浅草散策、 江戸東京博物館、ちゃんこ鍋懇親会～

日時 2011年11月26日(土)

集合時間 12時30分

集合場所 東京クルーズ乗船場待合室

担当 幹事7名(中嶋、笹岡、田中、梅田、伊藤、別府、池村)

参加者数 留学生36名、日本人学生7名、幹事7名

内容 早い学生は12時過ぎから集まったが、やはり集合時間の12時30分に遅れる学生もいた。日本人学生キャンセル2名(1名はこちらからメールして初めてキャンセルを確認。)、留学生1名キャンセル。

- 受け付けは予め決めたA～Iグループの表をもとに、名札を配布して確認。各グループは日本人学生にリーダーになってもらったが、日本人学生が来なかった2グループは留学生のみのグループとなった。
- JR浜松町駅南口から棧橋へは「水上バス」などサインが道なりにあり、留学生もあまり迷うことなく着くことが出来た。
- 乗船時間ぎりぎりの人数確認となったが、並んでから乗船となるので、よい席を確保するためにはもっと早く人数確認をして乗船手続きをする必要がある。

隅田川クルーズ 13時～13時30分、40分の乗船時間ということだったが、実際は30分程度。船着き場から雷門まで徒歩。人混みで道も分かりにくく大勢で移動するのに意外に時間がかかった。

浅草散策 グループごとに仲見世通りを通って、参拝し自由行動。集合時間15時20分グループごとの確認だったが、一人遅れて来た。徒歩で両国へ移動。写真を撮ったり、トイレに行く学生もいて30分ぐらいかかったが、天気も良く、景色を楽しんでいるようだった。

江戸東京博物館 先に着いた学生から入館した。17時30分の集合時間まで館内自由行動。グループ表をもとに人数の確認をした。学生がお互いの顔を把握

していたため、確認がとりやすかった。集合時間に間に合わなかった学生を待つ間、集まった学生から移動開始。

ちゃんこ鍋懇親会 両国江戸沢総本店 今回は完全なベジタリアンはおらず、少なくとも魚は皆食べることができた。20時過ぎ現地解散。

(幹事 池村 記)



(↑ 隅田川クルーズを終え、船を降りたところ。一同でハイチーズ！)



(↑ 仲見世通りを散策。雷門では大興奮！)

楽しくて忘れられない思い出に

I S E P

ハッヴァ・ヨルダシュ (トルコ)

私は三ヶ月ぐらい前イスタンブールのボアジチ大学から東京外国語大学へ留学に来た。日本にいる10ヶ月間日本語の勉強の他に、なるべく日本の色々で歴史的な所に旅行したいと思っている。日本と日本の生活とか歴史とか宗教に興味があるからである。今回日本へ始めて来たので、行った所とやってみたことは、これまで経験しなかったことなので、すごく楽しい。

TUFS ISSA の11月の26日に計画された浅草旅行は、そのためのいいチャンスだった。でも、私は留学生課やJLC建物の看板をよくチェックしないようで、旅行のことを友達から教えてもらった。そのためちょっと遅くなったので、定員一杯になっていた。旅行の二日前 TUFS ISSA の人が私に電話をしてくれて、旅行をキャンセルした人がいると言った。そして、私も行けるようになった。

11月の26日の午前中、水上バスに乗るために浜松町駅で集まって、このバスで隅田川を通った。この川の景色はきれいで、川の上にある橋が多かった。

浅草に着いた後で雷門を歩いて5人のグループで歩きながらこの有名で大きいお寺を見て回った。このお寺はすごく印象的で、お寺の近くにあるお土産の店は安かった。私はトルコに帰る前にここにお土産を買うため、もう一回行きたい。

雷門を1時間ぐらい見て回ってから、もう一回集まって川の岸にきれいな景色を見ながら江戸ー東京博物館に歩いた。ここは古い日本の生活がきちんと作られた模型を使いながら説明される大きい博物館である。ここに展示されている物のすべて見れば、長い時間かかる。ここで江戸時代の生活について色々なものを学んだ。

江戸ー東京博物館の後の予定はちゃんこー相撲鍋を食べることであった。皆さんはすごく疲れたので休んでみんなで話しながら鍋を食べることは楽しかった。

この一日でたくさんのことをしたり、面白いものを習ったりするのにこの旅行は500円しかかからなかった。この浅草旅行はすごく安くて、楽しくて私の忘れない

思い出になったと思う。この旅行を作った TUFSS ISSA の皆さん、どうもありがとうございました。次の旅行を楽しみにしている。



(↑ちゃんこ鍋を囲み、楽しいひととき。)

3-4 「国際交流の夕べ」が楽しく、賑やかに開催されました！！

2011年12月16日「日本文化体験教室と留学生との交流会」が、楽しく、賑やかに開催されました。

日本文化体験教室と留学生との交流会

日本文化体験教室

参加者数 171人

(支援の会担当)

—13時～17時 着付け教室

交流会館2号館交流ホール、51人参加

—14時～17時

茶道 生会館1号館和室、40人参加

華道 学生会館集会室B、20人参加

将棋・囲碁 学生会館A、10人参加

(武蔵野国際交流協会担当)

—14時～17時

墨絵・折り紙、和紙人形、琴演奏 50人参加

留学生との交流会「国際交流の夕べ」

参加者数343人

—17時45分～20時

学生会館1階ホール、ホールダイニング

行事名 文化体験—振袖 袴 着付け体験

日時 平成23年12月16日(金)1時～4時半

会場 交流会館 ホール

担当者 森田、百瀬、山本、井上(久)、他

着付け師 11名

参加者数 留学生 女性42名、男性7名、

スタッフ2名

内容 主に振袖の着付け体験してもらうコーナー、1時間に15名程、着付け師2名2組で着付けして、ヘアメイクもして、着終わってから約30分の時間フリータイムを過ごせる。男性は羽織袴を着付けして30分フリータイムを過ごす。

感想 3年前よりスタート時間を早く(他の体験グループ)する事で、終わりの時間がずれ込まなくなった。

友達と一緒に写真を撮りたいとか、どうしても気に入った着物が着たいので空くまで待つなどの学生もいて着付け師の手が空く事もしばしばあったが、着付け師が持参した着物(人気の赤の振袖)も例年より多く、かなり数は充実していた。ヘアメイクも森田さんが手伝ってくれ、本職の美容師にも、簡単に一人に沢山の時間をかけない様をお願いした…結果 余りパニックにはならなかったと思う。

(幹事 井上 記)



(↑留学生の晴れ姿！素晴らしい体験となりました。)

Great experience!

和服の着付け体験

ISEP

ショウ エイキン (ディプシー) (香港)

せっかく日本に留学して着物を着たことが一度もないなんかもったいないじゃないかと思って、16日に「日本文化体験教室・国際交流の夕べ」で和服の着付けを体験させていただきました。

「和服の着付け」やっぱり大人気です。参加を希望する留学生たちが40人以上を越えました。着物が足りないかなと少し心配しましたが、着物着付け教室の先生方々が振袖などの着物や帯をたくさん持って来て下さいました。私たちはその中から好きな1枚を選び、着せていただきました。さらに、髪型と履物も着物に合うようにセットしていただきました。

緋色・茜色・撫子色・白茶丹色・青竹色・群青・紫苑鮮やかな日本の伝統色が冬の校庭を彩りました。

着物を着てから別人みたいになった私たちは外に出て、キャンパスを回ってお散歩しました。着物を着たら外見だけではなく、気持ちも変わりました。少し大人しく、女性らしくなりました。着物を着ると速く歩けないし、幅広く動くこともできないし、それに笑う時も口を小さくしました。なぜなら、腰紐でしっかりと縛られているので息が苦しいからです。

でも綺麗な着物を着てよかったです。本当に楽しかったです。写真も何枚取りました。こんな素敵な経験をさせて下さった皆様に感謝です。日本の伝統文化に触れた一日でした。



(↑素晴らしい着物姿ですね。)

卒業を前に、「国際交流の夕べ」に参加して

日本語専攻4年

牟 美英 (韓国)

毎年開かれる今回のパーティに、今年も参加させていただきました。おいしい食べ物をいただきながら、いろいろな国から来た友達に出会ったり、楽しい会話を交わしたりしながら、パーティを楽しめました。私も外国人留学生ですが、普段は他の国からきた留学生と交流する機会がなかなかないので、毎年開かれるこのパーティは私にとって他国からきた留学生に出会い、いろいろな国のことが聞けるとても大事な場です。今回のパーティにもいろいろな国からきた留学生がたくさん参加しました。おかげで私もヨーロッパや中国からきた留学生の友達が作れ、お国の話が聞けたし、お互い日本留学生活についてもアドバイスしあったりしたので、とても楽しかったです。

私はこのパーティに参加したのが2回目でしたが、交換留学で東京外国語大学にきているほかの留学生の友達ははじめてだったので、パーティをとっても楽しんでいるようにみえました。特に、日本を代表する料理であるすしや焼き鳥などおいしい食べ物や、お酒などの飲み物もたくさんおいてありましたので、みんなそれを食べたり飲んだりしながらパーティをより楽しめたのではないかと思います。また、パーティではいつもお世話になっている東京外国語大学の関係者の方々や先生にも会えて、いろいろな話をすることもできましたので、とても充実した時間になりました。

パーティ中に留学生や日本人学生、先生が一生懸命準備してくれた歌やダンスなどもみることもでき、パーティ会場はさらに盛り上がり、みんなの笑顔があふれました。

いろいろな国からきた留学生たちと日本人学生と一緒にパーティを楽しめるのって本当にいいことだと思います。私は今年東京外国語大学を卒業予定ですが、卒業前にこの貴重なパーティに参加させていただくことができましたので、とてもよい思い出となりました。最後に毎年留学生のためにパーティを開いてくださっている東京外国語大学の関係者の方々に留学生を代表して感謝の言葉を伝えたいと思います。本当にありがとうございます！！

3-5 日本語指導教室

日本語のボランティアとして

幹事協力者
松井 外恵

「こんにちは、おげんきですか」「げんきです」挨拶は日本語で始まります。

インドネシア・バリ島の大学から、1年間の予定で当大学で研修しておられる大学教授(言語学)Ketutさんの日本語ボランティアを始めて半年が過ぎようとしています。

期間は1年間、この短い期間で、どこまでの日本語を教えることができるのかとだいぶ悩みました。

Ketutさんは「おはよう」「ありがとう」などの挨拶以外、日本語は出来ませんので、Ketutさんとのコミュニケーションは英語です。

どんな日本語を勉強したいのか質問しました。

- ・ひらがな、カタカナが読めるようになりたい。
- ・漢字は難し過ぎるので要らない。
- ・日常生活の場面、例えば銀行で、駅で、スーパーマーケットで・・・などで使う言葉を学びたい。

このようなリクエストを受けて、私がアメリカ在住の時に、地域住民のために“Japanese for Travelers”という講座を受け持っていた資料をもとに、ここで新しく松井オリジナルのテキストをつくりました。

週1回、2時間のコースです。最初の20分間は「昨日は何をしましたか」「話したいピックス」を英語で話合います。その会話から、大事な日本語の単語を抜き出して覚えてもらっています。インドネシアと日本の文化の違いが話題になり、お互いに文化の勉強になっています。

会話の時間の後は、ひらがな、カタカナの50音表を声に出して読みます。ガ行、ザ行、ダ行・・・などの濁音、破裂音などは覚えにくいものですが、さすが言語学の専門家のKetutさん！覚えの早い事は見事です。

50音の音読の後は日常会話へ入ります。私が作ったオリジナルのテキストを使って、日本人が英会話を学ぶ時と同じように、毎日の生活の場面を日本語で話しています。予習、復習で繰り返し行っています。

最後の30分間は童話「おむすびころりん」を読みます。ひらがなで書いてある絵本です。おじいさん、おばあさん、おむすび・・・といった言葉も出てくるし、ストーリーも面白いので、どんどん読み進んでいます。絵本の巻末には英語でストーリーが書かれています。

Ketutさんはすっかりひらがなを覚えて「おむすびころりん、おむすびころりん」ときれいな日本語で、つかえることもなく読めるようになりました。日本人が英語を学び始めて、このように短い期間に英語をマスター出来ないのに・・・と言語学専門のKetutさんの頭脳に感嘆しています。

EXPERIENCE

4. ホームビジット&ホームステイ

4-1 新潟の西原さんと初めての雪

日研究生(ダナン外国語大学日本語科)
グエンティホンリエン(ベトナム)

梅田さんのお蔭で、新潟の西原さんのお宅にホームステイに行けました。まことにありがとうございます。

新潟でいつまでも忘れられない思い出を作っていました。

西原さんの家族は、いろいろな世話をしました。みんなが親切に私たちを迎えて、自分の子供のようにあつかってくれました。私は自分の家族に会う感じがあって、とても嬉しかったです。

初めの一日、新潟歴史博物館へ行かせていただきました。とても素晴らしくて、自分が大昔の世界に入った感じがあって、面白かったです。ここに入って初めて、機械がなかった時代に住んでいた人間の手の力がわかりました。

そして、はじめて雪を見たり触ったりしたことは本当に素晴らしかったです。特に、雪がない熱帯の国から来た私たちにとって、そのことは忘れられないことになりました。それに、温泉も行かせていただきました。とてもいい気持ちでした。

本当に忘れられない新潟でした。

Thank you!

VOICE

5. 留学生の声

5-1 日本はやっぱりこれだ！

外大は大好きだ！！

日研生

ニメーシャ・セツワンディ（スリランカ）

日本に来て4ヶ月も経ちました。今、東京外国語大学は自宅のように感じます。日本に来たばかりの頃は寂しくて、寂しくて、親と国の友だちのことを懐かしく思い出しました。寮の生活に慣れていなかった私とって一人暮らしの生活は辛くなるかも思っていたのにだんだん時間経っていくと国際交流会館での生活は大変楽しいということがわかりました。

様々な国の人々と友達になり、互いの文化を理解し合いながら、喧嘩したり、口争いしたりして留学生活を楽しんでいます。各国の料理を作ったり、歌を歌うことなどを通して日本にいながら他の国の文化も体験できるのは本当にうれしいことです。

日本文化に興味を持っている私は、授業を楽しみながら留学生支援の会が行う生け花・茶道教室にも参加します。思っていたより茶道と生け花が持っている深い意味を実感できて感動しました。私が思っていた日本はやっぱりこれだとわかりました。言語を学ぶというのはただ言葉と文法を覚えるだけではないいつも考えていました。日本に来て日本人と交流できてからその考え方に間違いがないことがわかりました。地域の人々と餅つき大会をやったり、うどんを作ったりなど日常的なイベントに参加できて本当に喜びました。

東京なのに、家族皆集まってお餅を作ってお正月をお祝いするなんて信じられないことでした。今は地域の人々と交流するのは何よりです。特に、近くにある小学校等に行ってスリランカのことを紹介して子供たちと遊ぶなど、誰もがもらわないチャンスが外大のおかげで体験できます。

季節の移り変わりが無い国に生まれた私は日本に来て雪遊びするのを楽しみにしていました。期待通り、新潟に住んでいる、留学生支援会の会員の西原さんのお宅でホームステイも雪遊びも体験できました。お

父さんとお母さんはとても優しく、いろいろな所へ連れていったり、美味しい料理を作ってくれたりして、新潟から帰りたくなかったのです。本当にいい経験になりました

まだ、日本にきて4ヶ月だけだからもっと楽しめる機会を期待しています。

外大は大好きだ!!!

5-2 夢のような外大に留学することになって、4ヶ月！

日研生

ブン ソケッチ（カンボジア）

日本に留学する前に、大学で三年間日本語を通じて日本文化を勉強していた時はとても面白くて、日本に来たいという気持ちが沸いてきました。思い掛せず、やっとな夢のような東京外国語大学に留学することになりました。その時には、嬉しいとともに心配していたこともありましたが、それでも、このような大切なチャンスがなかなか手に入らないので、それを大事にしなければならぬと考え、これから日本での留学生活を楽しんでいこうと思っていました。

知らず知らずのうちに、日本での留学の生活は四か月ぐらい経ちました。初めて東京外国語大学に着いた頃は嬉しかったが、前から一人で生活したことがないだけでなく、日本社会や日本語が少ししか分からない私は、これからどうしようかという気持ちもますます出てきました。けれど、思っていたイメージと違って、東京外国語大学にいる皆様方の温かい大歓迎のおかげで、私は皆様が自分の家族のような感じがして、もう何も心配しなくてもいいかなと思うようになりました。

四か月ぐらいの間に、日本語を勉強しているうちに、さまざまな日本文化を体験したりして、また冬休みの時に新潟の長岡のほうまで行って、日本人の家でホームステイをしました。実際の日本人の家で日本人の家族と住んだり、一緒に食事したりして、日本人の生活が毎日体験できて、色々勉強になり、本当に嬉しかったです。

今、多言語・多文化が充実している東京外国語大学で日本語・日本文化を学び、直接に自分の目で現

実の日本社会を見たり、毎日日本人や外国人留学生たちと話したりして、海外の異文化と触れ合うことができるのが本当にいい生活で、何よりも素晴らしくて、有意義な時期だと思います。

これから、世界中の人々とつながっていて、海外の文化を味わい、海外の生活を楽しんでいくことを私は期待しています。

5-3 留学生の日本での生活

～留学生の生活には悩みが

ないわけではない～

特別聴講生（モスクワ国際関係大学）
ガチンスキー・アンドレイ（ロシア）

これはよく知られていることだと思うのだが、日本人はここ何十年間にわたって欧米の影響を受けているが、日本人の生活はそれでも独特である。ロシア人にとって相違が多い。おそらく、欧米人にとってもそうである。

西洋から来た民主主義と、日本人の伝統的な考え方の中心である「礼儀正しさ」と「恭謙」との混ぜ合わせは、とくにサービスの面で、ものすごい結果を生んでいる。公式的な手続きであっても、電子支払いなどの日常生活上のサービスであっても、ほとんど全部が楽にできるものである。日本でのサービスにおける概念は、お客様がサービスの内容をよく理解するようにすると、お客様に面倒をかけないようにする、ということだと思う。これは賞賛するべきものではないか、と私は思う。日本にいる間に、一番よく感じているのは、便利さである。

しかし、留学生の生活には悩みがないわけではない。これもよく知られていることだが、日本の生活はお金がかかる。サービスの質は高いから自然にサービス料も高い。物価については、すべてがロシアより高いとは言えないけど、やはり食べ物の大部分はまさにそうである。それだけではなくて、日本人の食生活自体が欧米のと異なっている。私は和食を食べたことは何回もあるが、やはりそれを毎日食事にするのに慣れないといけな。もちろん、文句を言っているわけではないが、それは私だけではなくて、外国人の多くが日本滞在の初期に感じていることである。

本当に残念なことは、交通制度だと思う。とくに電車の場合、その仕組みも、価格も驚かされるものである。ここから目的地まで、どの線を使って、どんな電車で行けるか、そしてどのぐらい時間とお金がかかるか、というのは私をよく困らせる点である。確かに、行き方を一覧で表示する携帯やスマホ向けのソフトがあるが、交通制度は外国人にとって複雑すぎると思う。また、学生と老人に向けた割引制度があればよいと思う。

それにしても、日本での生活は満足できる。ロシアと違っているところは多いのだが、私のような外国人にとって日本で生活するのはそれほど難しくない。ある程度、社会サービスの制度のおかげで勉強も、暇の時間も楽しんでいる。

5-4 宮城県石巻市へのボランティアの旅

2011年12月23日～26日

My impression on the volunteer work at Ishinomaki city -

大学院（PCS）

Ahmed Amir（イラク）

It was really enjoyable trip, when we shared the people of Ishinomaki their happiness of Christmas, and when we had distributed candy and gifts to the children, and at the same time I had been affected and felt saddened at what I saw from the destruction of people's Home's solution by the Earthquake and Tsunami.

Regardless of tiredness and the length of the trip, I think that the most important thing that we accomplished as a team work was planting joyful in the Hearts of the people and the beautiful smile on the faces of children, as well as beautiful memories and pictures.

アフメットさんは、大学の東北支援のボランティアとして、クリスマスのプレゼントを持って行き、被災地の子供達にプレゼントを配るサンタクロースになって、とても喜ばれました。写真をご覧ください。

（幹事 梅田 記）



(↑アフメットさんの気持ちと行動力、そして交流する力は素晴らしいものですね。)

な部署を回りましたが、中でも留置場の看守業務が大好きでした。それは、先行きの不安が募り気落ちして、留置室内にじい〜と座っている留置人に映画の話などをしてあげると、ホワッと笑顔になるのがとても楽しかったからです(ホントは会話禁止。これはオフレコ)。

しかしながら当時から、段々と外国人犯罪者が増えてきて、私の頭の上を各国の言語が飛び交うようになって大変戸惑いを覚えたものです。

「これはせめて英語だけでも習得しなくては・・・」と思いながら早数十年が経ってしまいました。

今、ようやく、このボランティアがきっかけとなり英会話を学ぶ機会が得られ、さらに嬉しい事に、多数の留学生とも触れ合うようになりました。

彼らは何故、この物価が高く複雑怪奇な言語をもつ日本をわざわざ選んでくるのかとても不思議ですが、立派だと思っています。

しかし、彼らの引っ越しに始まり生活面での苦勞を見るにつけ、その高い志に感動すると共にどんどん愛しさが増してきました。

彼らの高貴な魂が、日本をスタートとして世界を繋げていってくれたら、少しでも関わりを持てた者として嬉しく思う今日この頃です。

留学生支援 会員の皆様ひとりひとりが
留学生の笑顔をつくれます！

VOICE

6. 会員の声

6-1 愛しい留学生たち

幹事協力者
井上 あけみ

私は現在59歳ですが、ボランティア活動をして2年になります。

末っ子が中学生に上がり、少し手が離れた頃、友人の井上久美子さん(幹事)からのお誘いがあったので当会のお手伝いを引き受けました。

私は20代の頃から、仕事上で外国語習得が必要だと強く感じておりました。

私は婦人警察官を14年程やっております、様々

ご入会、ご寄付
ご協力いただき、ありがとうございます

新規加入者

■ 一般会員(平成23年11月1日～24年2月10日)

(敬称略) 田雑正信、藤巻恵美

会員寄付者

■ 一般寄付(平成23年11月1日～24年2月10日)

(敬称略) 浅沼尚也、池永郁夫、今出和子、内海和夫、
大坪美智子、佐々木生、鈴木千尋、田中啓雍、内藤義弘、
中村宏、橋本文男、星野利夫、柳川三郎、築田長世

万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、
当会までお知らせ下されば幸いです。

2月10日現在
会員数：1552名
納入者：704名
納入率：45.3%

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込くださいます様、お願い申し上げます。

※ ひとりでも多くの方々の早期納入のご協力をお願い致します。

※ 振込用紙にメールアドレスをお書き添えいただければ、今後、当会の各種イベントなどの情報をお届けしていきます。

※

一般会員:年会費 3,000円

協賛会員:年会費 20,000円

平成23年度 会費納入のお願い 3月31日(土)まで受付

会員の皆様には、これまで支援活動へのご協力、ご支援をいただき、ありがとうございます。と同時に納入をお忘れの方、ご入会2、3年目の方々、納入率アップに是非ご協力下さい。

会員の皆様の納入率6割強を目指しています。

来年度の活動ご支援いただくためにも、

是非会費納入継続をお願い申し上げます。

平成24年度も引き続き会員としてご支援いただきたく、本年度会費を同封の振込用紙にてお振込下さいます様、お願い申し上げます。振込用紙にメールアドレスをお書き添えいただければ、当会の各種イベントなどの情報をお届けしていきます。

ACTIVITIES

7. これからの活動

※ これからの活動について、会報がお手元に届く日付によっては、既に終了してしまった企画がある場合がございます。ご了承いただきたくお願い申し上げます。

1

3月20日(火)

鎌倉見学

日時 3月20(火)(春分の日・祝日)

募集人数 留学生30名、日本人学生10名

コース 新宿駅西口集合ーバスで鎌倉へー
建長寺ー鶴岡八幡宮ー由比ヶ浜(昼食)
ー長谷寺ー大仏ーバスで新宿へ

今回ははじめてのバス旅行です。人数に制限があり、留学生と付き添い幹事のみ参加とさせていただきます。ご了承ください。



幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成23年12月3日(土)

平成24年1月14日(土)

平成24年2月19日(日)

平成24年3月18日(日)(予定)



ご意見、感想など、会報への 投稿募集 どしどし お寄せ下さい

当会へのご意見、ホームビジットやイベントに関する感想文など、会報への投稿をお待ちしております。
お気軽にお問い合わせ下さい。

HOME VISIT & STAY

♪ ホームビジット、ホームステイ受け入れに関心のある方は是非、当会にお問い合わせ下さい。

首都圏などでのホームステイ受け入れに加えて、地方の方々のお申し出もお待ちしております。といいますのは、留学生たちは、日本の地方の文化に触れ、生活してみたいという希望もまた多いからです。

通常 2 月に発刊しております本会報ですが、今回事情により発行が遅れました事、お詫び申し上げます。

会費納入の継続をお願い申し上げます！

留学生の笑顔で、私たちも笑顔で、新学期を、春を迎えたいものです。



<お問い合わせ先>

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学 留学生課気付(梅田、谷川)

TEL : 042-330-5183、5759

FAX : 042-330-5189、5762

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

©Copyright 2012, TUFSS International Student Support Association